

自己点検評価報告書

佐賀大学学術情報処理センター

平成 14 年 10 月

目次

第 1 章	学術情報処理センター設置の理念と目標	1
1.1	設置の背景	1
1.2	学術情報処理センターの基本概念	1
1.3	業務内容	2
1.3.1	研究支援	2
1.3.2	教育支援	3
1.3.3	ネットワーク支援	4
1.3.4	図書館情報支援	5
1.3.5	ネットワーク安全管理	6
1.3.6	SCS (スペースコラボレーションシステム) 支援	7
1.3.7	学内情報化支援	7
1.3.8	地域情報化支援	8
第 2 章	情報基盤の整備と運用	9
2.1	情報基盤の整備と運用の概要	9
2.2	システムの導入	9
2.3	平成 12 年度から平成 14 年度までのシステム導入作業	10
2.4	システム運用	10
第 3 章	学術情報処理センターのシステム	11
3.1	学術情報システムの構成	11
3.2	教育用システム	12
3.2.1	講義一覧及びその受講者数	13
3.2.2	演習室時間割	19
3.3	一般利用・研究用システム	25
3.4	ネットワークシステム	25
3.5	電子図書館システム	26
3.5.1	はじめに	26
3.5.2	システムの全体構成	26
3.5.3	電子化情報提供システム	27
3.5.4	研究教育用情報統合システム	27
3.5.5	データベース化支援	28
3.6	教育用情報基盤システム	28

3.7	建物の状況	29
第4章	学術情報処理センターにおける教育活動	31
4.1	センター教員の教育活動	31
第5章	学術情報処理センターにおける研究活動	33
5.1	研究活動の概要	33
5.2	研究業績一覧	34
5.2.1	著書	34
5.2.2	学術論文	34
5.2.3	資料・解説・論説・研究報告等	36
5.3	共同研究・研究費受け入れ状況	38
5.3.1	平成12年、13年及び14年の共同研究	38
5.3.2	研究費受け入れ状況	38
第6章	学術情報処理センターの教員組織	39
6.1	教員配置状況	39
6.2	採用・昇任の手順・基準	39
6.2.1	教員人事の基準	39
6.2.2	教員人事の手順	40
第7章	学術情報処理センターの事務機構	41
第8章	学術情報処理センターにおける国際交流	43
8.1	海外からの訪問者	43
8.2	学術情報処理センター教員の海外渡航及び国際会議参加	43
8.3	国際協力事業への参加	44
第9章	学術情報処理センターと社会との連携	47
第10章	学術情報処理センターにおける自己点検・評価の体制	49
第11章	学術情報処理センターにおける外部評価の体制	51
11.1	外部評価の実施	51
11.2	協議会・研究会参加状況	51
11.3	ホームページからの情報公開と意見収集	53
第12章	学術情報処理センターの活動	57
12.1	センター活動の現状と計画	57
12.1.1	センターの活動状況	57
12.2	学術情報処理センターの委員会構成	61
12.2.1	運用委員会の主な議題	61
12.3	広報活動	70

12.3.1 広報誌発行	70
12.3.2 センターニュース	72
12.4 他部局との連携	79

第1章 学術情報処理センター設置の理念と目標

1.1 設置の背景

学術情報処理センターは、以下のような背景の下、平成12年4月に、情報処理センターを改組し、設置された。

1. 近年の情報通信分野の進展は目覚ましいものがある。コンピュータとインターネットという新しい創造表現手段および情報交換手段は新しい文化を創造しつつある。当然、それらは研究・教育の内容に大きな変化を引き起こす。同時に文書のオンライン化等は、一般事務処理作業だけでなく、行政を含んだ様々なサービスの質的变化をもたらす。文化の継承と創造を責務とする大学は、こうした動きの当事者でなければならない。
2. また、我が国を巡る諸問題に対応し、科学技術創造立国を目指すために策定された、「科学技術基本計画」(H8.7)でも研究開発に関する情報化の促進が掲げられている。
3. 学術研究の発展には、従来の図書館機能に加え、コンピュータ・ネットワークを使った学術情報の迅速かつ的確な収集・提供が不可欠である。学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館の機能の充実・強化について」(H8.7)でも、このような機能整備の必要性が述べられている。
4. このような情勢の中、佐賀大学においても総合計画検討委員会の答申「佐賀大学高度情報化の基本的考え方について」(H9.1)を得て、学術情報基盤の整備を着実に進めているところである。
5. しかし、現状では大学の学術情報基盤を統括する部門がなく、総合的な情報化が困難である。そこで学術情報処理センターを設置して大学の学術情報を支える基幹情報システムの統括組織として位置付け、情報化の促進を図る。

1.2 学術情報処理センターの基本概念

従来の情報処理センターおよび総合情報処理センターは研究支援を主としてきた。しかし、その利用内容は、電子メールによる連絡から大規模数値計算まで、急速に多様化している。特に、電子メールは日常的情報交換手段として、欠くことの出来ないものとなっている。また、インターネットを利用した学術情報流通の質的・量的拡大は著しいものがある。更に、情報処理教育の普及や事

務処理の電算化など、利用内容が多様化している。こうした、コンピュータとネットワークの利用形態の多様化に対応した新しい概念の組織が必要とされている。

学術情報処理センターは大学における学術情報を支える基幹情報システムの統括組織として設置された。この基幹情報システムは、基幹ネットワーク、ネットワークサーバ、外部接続線、共通的教育用システム、共通的研究用システム、学術情報データベース等から構成される。

学術情報処理センターでは以下の業務を行う。

1. 研究支援
2. 教育支援
3. ネットワーク支援
4. 図書館情報支援
5. ネットワーク安全管理
6. SCS 支援
7. 学内情報化支援
8. 地域情報化支援

また、業務と並行して、実際のシステム運用に伴うシステム管理技術の調査・研究開発、ネットワークを通じて迅速・的確な学術情報の収集・提供を行う電子図書館的機能の実現のための調査・研究開発、ネットワーク上の安全管理技術の調査・研究開発を行う。

1.3 業務内容

1.3.1 研究支援

1. 研究支援のための基幹的情報システムを整備・維持する。

連合大学院農学研究科(博士課程)、工学系研究科(博士課程)、経済学研究科(修士課程)、教育学研究科(修士課程)、工学系研究科独立専攻生体機能システム制御工学専攻などの大学院充実が行われている。この研究を支援する情報システムを構築し提供する。
2. 情報技術を用いた研究の高度化を支援する。
 - (a) ワードプロセッサや $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を利用した論文など文書作成を支援する。
 - (b) 表計算によるデータ処理から、可視化ツールを用いたデータ表示までのデータ処理を支援する。
 - (c) 中規模数値計算及びシミュレーションなど、コンピュータを用いた研究を支援する。

3. 電子メールなどネットワークを通じた国内外との研究交流促進を支援する。

海洋温度差エネルギー実験施設とインド国立海洋技術研究所との共同開発協力協定を始めとして、国内外施設との共同研究や研究協力がスムーズに運ぶようネットワーク運用を行う。研究情報取得、学内外研究者との議論、研究結果発表などの高速化・即時化を図ることは、地方に位置する大学では特に価値を持つ。

4. WWW や ftp などネットワークを通じた研究開発成果の公開を支援する。

研究成果を WWW や ftp 上で公開する例が佐賀大学では小規模ながら既に始まっている。これらの技術支援およびシステム支援を行い、地域・国内外との共同研究に生かす。

5. 大学の研究用コンピュータ環境について技術動向の調査研究を行う。

情報技術の進展は目覚ましいものがあり、その利用技術の有無が研究環境を大きく左右する。技術進展に追隨して最先端の研究を進めるために常に動向を把握検討する。特に地方に位置しその規模が小さい佐賀大学では、積極的な調査と効率的な環境の構築を常に意識する必要がある。

また大学のシステムは、学生から教職員までの多様な利用技術レベルの利用者を抱え、導入教育から研究、事務処理まで多様な利用内容に対応しなくてはならず管理運用上の困難さを有している。これを研究する。

6. 新技術、ソフトウェア、情報技術応用の研究開発を行う。

情報技術は、まさに発展途上にある。その技術開発は実際の運用・実践を行うセンターが最も相応しい位置にある。佐賀大学では、情報処理センター教員によるネットニュースシステムのためのソフト開発の例がある。また、WWW 情報検索や教育工学などに関する研究がなされている。

1.3.2 教育支援

1. 情報処理演習室を設置・管理・運用するとともに、全学共通的な情報教育システムを整備・維持する。

全学生にコンピュータ利用権を与え、情報処理科目を必修科目として課している。教育内容にも電子メール利用などを含め時代に相応しい情報素養の充実を図っている。この全学的な情報教育を効率良く行えるシステムを構築し提供する。

2. 専門教育・共通基礎教育の情報化、マルチメディア化を支援する。

佐賀大学では、多くの教員によって、電子メールによるレポート提出や WWW による課題の提示などが行われている。また、コンピュータやプロジェクタなどの情報機器を使った教育も行われている。これらの教育活動を技術支援するとともに、必要なシステムや基盤の提供を行う。

3. 公開端末や情報コンセントの提供により自発的学習、自発的情報交流を図る。

常に利用可能なコンピュータの利用環境を充実し提供する。センター内端末を充実するとともに、学内に情報コンセント・情報端末等の配置を行い、その維持を行う。佐賀大学では既に、就職情報端末や科目選択支援システム端末が配置されている。

4. 附属幼稚園、小学校、中学校、養護学校の情報教育を支援する。

既に附属小学校、中学校には専用線を引き、常時インターネットが利用可能な体制としている。また、他の施設も内線電話でインターネット接続が可能な状況にある。これらを引き続き支援するとともに、今後の情報教育の拡大に伴う技術支援を行う。

5. WWW や電子メールなどネットワークを通じた講義資料・レポート等の配布・収集を支援する。

既に個人的に始まっている試みを広げるため、技術指導、システムの設置等を通してこれを支援する。

6. 大学の教育用コンピュータ環境について技術動向の調査研究を行う。

初等中等教育での情報処理教育の進展、情報機器の進展等の時代要請に合わせて、教育用コンピュータの環境は、柔軟に対応せねばならない。これを研究する。

7. 新技術、ソフトウェアの研究開発を行う。

佐賀大学では、計算機やネットワークを用いた教育支援の研究が行われている。このような教育に有用な技術、ソフトウェアの研究開発を進展させる。

1.3.3 ネットワーク支援

1. 基幹ネットワークを整備・維持するとともに、その高度化を図る。

佐賀大学では、学内 LAN が全学に張られておりネットワークで相互接続されている。今や基幹ネットワークは停止が許されない学術情報基盤となっている。センターでは、各部局、附属施設等を接続する基幹ネットワークを整備・維持し、様々な情報が流れる安全な共通の学術情報基盤を安定に提供するとともに、各種ネットワークサービスを充実して研究・教育の高度化を図る。

2. 全学ネットワークの連絡・調整にあたり、計画的な発展に寄与する。

佐賀大学では、各建物内のネットワークが既に存在している。更にそれらのサブネットワーク化も幾つか進められている。これらのネットワーク間での連絡を行ない、全学がバランスの良い安全なネットワーク構成となるように調整を図る。

3. ネットワークシステムおよび応用について技術動向の調査研究を行う。

ネットワーク上のサービスは急速に進歩拡大している。この調査研究を行ない研究教育に資するサービスの積極的導入を図る。

4. 新技術、ソフトウェア、ハードウェアの研究開発を行う。

ネットワーク技術は発展途上にあり多くの研究開発が必要である。実践に基づく研究を行なう。

5. 各種サーバを導入・維持管理し、ネットワークサービスの整備・充実を行う。

電子メール、WWW、ネットニュース、遠隔利用、ファイル転送、DNS、PPP、NTP、リモートプリント、遠隔会議など、ネットワークを利用した多くのサービスが存在し、また次々に誕生している。これらのサービスの整備・充実を図る。

1.3.4 図書館情報支援

1. 図書館電算化システムの維持管理を行う。

既に、情報処理センターは、附属図書館における電算化システムの開発を支援し、Windows環境でのシステム構築、国立情報学研究所とのインターネットによる情報交換などを全国に先駆けて実現することに寄与した。このような電算化システムの維持管理を行い、充実を支援する。

2. ネットワークとコンピュータを生かしたマルチメディア・電子図書館的機能を充実・強化する。

図書館機能のマルチメディア化、ネットワーク化が進展を見せている。佐賀大学附属図書館においても、現在、CD-ROMで提供される雑誌目録のオンライン検索、佐賀大学所蔵図書・雑誌のオンライン検索、佐賀大学刊行の紀要・論文集の目次データベース公開、文献調査等のオンラインでの依頼と回答、オンラインジャーナル提供の試行、文献検索サイト等の有用リンク集提供などのサービスが始まっている。「佐賀大学マルチメディア電子図書館構想」を持ちサービスの充実を目指している。この構想には、本学所蔵の貴重図書（小城鍋島文庫）の画像データベース化等が含まれる。学術情報処理センターにおいては、この基盤となるネットワーク、サーバシステム、データベース管理システム等の維持管理を行い、充実を支援する。

(a) マルチメディア情報の蓄積及び公開

- i. 書誌・所蔵データベース
- ii. 目次データベース
- iii. 全文テキストデータベース
- iv. 静止画像データベース
- v. ビデオ画像データベース

(b) 電子ライブラリアン・システムの構築

- i. エキスパートシステム
- ii. 電子カウンター・システム
- iii. 入退館システム
- iv. 図書自動貸出システム

(c) 電子媒体を利用したサービスの展開

- i. オンラインジャーナル
- ii. 文献電送システム

3. 学術データベースの構築を支援する。

低平地防災研究センターにおける地盤情報および地理情報データベースや、海浜台地生物生産研究センター、海洋温度差実験施設におけるデータなどの佐賀大学独自の貴重なデータの蓄積・公開を支援する。

4. 教育データベースの構築を支援する。

教材、資料等をまとめて管理するデータベースの構築について支援を行なう。

5. 学内情報発信を支援する。

研究成果、論文、シラバス、教材、その他多様な情報がネットワーク上に公開されつつある。学術情報処理センターでは、これを情報システムの面から支援する。

6. インターネットを利用した情報収集機能の充実・強化を図る

インターネットは巨大な情報空間いわば地球規模の図書館となりつつある。固有情報の電子化提供に加えて、この情報空間を有効に利用するための親和性の良いインターフェースの構築は、学術情報の迅速・確実な収集には重要である。学術情報処理センターでは、この方向性を将来の電子図書館的機能として位置付け、固有情報の提供と合わせて、ネットワーク接続の増強、インターフェース高度化を目指すとともに、不正アクセス、破壊活動への対処を行う。

1.3.5 ネットワーク安全管理

1. 不正アクセスに対する防止対策を行う。

現在、インターネットを通じた不正アクセス攻撃が毎日のように行われているが、十分な対策が取られているとは言えない。学術情報処理センターでは、ファイアウォールの設置・維持・監視、暗号化通信技術の導入、ユーザ認証の厳密化、全学ネットワーク構成の適正化等、学内外からの不正アタックへの対策を行い、快適で安全なネットワーク環境を維持する。ただし各部局の個別データの保全是、それぞれで行うものとする。

2. 不正アクセス追跡のためのアクセス記録を管理する。

不正アクセスの追跡にはアクセス記録が必要であるが、その維持管理は、取得技術、大量データの保持、プライバシーとの関連など、面倒な問題を含む。学術情報処理センターでは、学外通信記録の保持と外部への情報提供に、注意深く対応する。

3. 不正アクセスに関する情報を収集し学内へ広報する。

不正アクセスやウィルスなどへ対抗するには、早期の情報収集と広報が必要であるので、学術情報処理センターにおいて、収集・広報を行う。

4. 不正アクセスに対応した障害対策を行う。

不正アクセスやウィルスが発生した際の対応は、緊急にかつ全学規模で行う必要がある。これを学術情報処理センターが中心となって行う。

1.3.6 SCS（スペースコラボレーションシステム）支援

1. システムの維持管理および関連サービスを実施する。

視聴室を情報処理センター内3室、ATM ネットワーク経由2室を設置しており、研究・教育・事務連絡等に利用している。この利便性を高めるとともに広報を行い発展を図る。

2. SCS を用いた大学間交流を支援する。

連合大学院農学研究科参加の大学間、高エネルギー加速器研究機構との間などを始めとして利用されている。このシステムを維持管理して利用者の利便に答える。

3. SCS を用いた遠隔教育を支援する。

既に連合大学院農学研究科参加の大学間で大学院生の指導などに利用されている。システムを維持管理して利用者の利便に答えるとともに、更なる利用を促進する。

1.3.7 学内情報化支援

1. 学内の諸業務の情報化について技術支援を行い、大学運営の高度化を図る。

今や情報基盤は、教育研究に限らず大学環境全ての面で必要になっている。これに対して技術支援を行ない、全学的な底上げを図る。

2. 教育研究活動と事務処理とのインターフェイス部分の高度情報化を支援する。

事務処理と研究教育活動の密接な関係を作ることは大学全体の情報化において重要な課題である。既に、相互接続およびメール連絡等について進められている。これらのネットワーク接続、データ互換などについて事務と共同して検討する。

3. 計算機とネットワークに関する各種情報の収集と学内への提供を行う。

情報技術進展の速さと雑多な情報の多さによって、必要な情報を的確に把握できなくなっている。これを収集整理して提供する。

4. 学内各部局への計算機とネットワークに関する技術的相談業務を行う。

既に、相談員制度を設けて技術相談に応じている。これを充実する。

5. 新しい計算機とネットワークの利用技術の広報と講習を行う。

広報誌やマニュアル、利用説明会、講演会等を通じて、新技術の普及に努める。

1.3.8 地域情報化支援

1. 地域情報化の技術支援を行い、地域の健全な発展に寄与する。

情報化社会への産・官・学の一体的取り組みを図る佐賀県高度情報化推進協議会が設置され各種施策が実施されている。県内唯一の総合大学である佐賀大学として学術面からの支援を行い、講演会、講習会、推進方策策定などに協力する。

2. 初等中等教育への技術協力を行う。

佐賀大学教官が、小中学校に計算機を持ち込み、インターネット体験をさせる試みなどを行っている。今後初等中等教育への計算機とネットワークの導入の拡大に伴い起こる多くの問題に対して技術支援する。

第2章 情報基盤の整備と運用

2.1 情報基盤の整備と運用の概要

第1章で述べたように、学術情報処理センターは、大学における学術情報を支える基幹情報システムの統括組織として設置された。従って、センターの業務の中心は、大学の情報基盤と整備と運用である。

大学における情報システムは、通常の情報システムとは質的に異なった様相を有している。第一は、情報処理技術をこれから学ぼうとする学生から、情報処理技術を日常的に使いこなす教員まで、非常に技術レベルの多様な利用者を有している点である。また、それらの使い方も、電子メールや Web 利用といった初歩的レベルから、大規模データ処理やシミュレーションといった高度なものまでが含まれている。

このような多様な利用者 と 多様な利用内容を含むシステムを導入し、運営するとともに、常に技術的革新をすることが学術情報処理センターに求められている。こうした業務の遂行に、学術情報処理センターの教職員は、最も時間と労力を傾けた活動を行っている。

2.2 システムの導入

システムの導入は、需要及び市場調査に始まり、予算要求、仕様策定及び技術審査を経て、導入に至る。

需要及び市場調査は、センター教職員による日常的な運用、及び技術調査検討を通じて行われる。こうした情報に基づき、予算獲得の機会がある際に予算要求を行っている。予算要求の際には、要求システムの目的、概要などを記述した文書を作成する。

仕様策定は、センター教員に各学部からの委員1名程度を加える形で編成された仕様策定委員会で行われる。仕様策定時には、システムを構成する機能、機器について詳細な記述が必要になる。対応する技術状況やシステムの全体的整合性に関する知識と経験が求められるため、経験のあるセンター教員でなければ仕様書を実際に作成することは困難である。センターの中心となるシステムの場合、この作業は数ヶ月程度の時間を要する。

仕様策定後、入札などが行われる。入札の場合には、仕様書と提案書との整合性の確認のため、技術審査が行われる。技術審査委員会は、仕様策定委員以外の各学部からの委員1名程度で編成され、仕様策定委員会と独立に審査を行う。

導入業者の決定後、導入作業に入る。導入前に、導入機器の詳細設定項目、運用体制などの調整を行う。導入作業中は、動作確認などを行う。

2.3 平成12年度から平成14年度までのシステム導入作業

学術情報処理センターでは、平成12年度から平成14年度の間、表2.1にあるシステム導入作業を行った。また、平成12年度の附属図書館電子学術情報発信システム導入に当たって、仕様策定委員及び技術審査委員を勤めた。

表 2.1: システム導入作業一覧

システム名称	仕様書公開日
佐賀大学学術情報処理センター電子図書館システム	平成12年6月
佐賀大学学術情報処理センター電子図書館マルチメディア入出力システム	平成12年11月
佐賀大学キャンパス情報ネットワークシステム	平成13年1月
佐賀大学学術情報処理センター高度情報処理システム	平成13年6月

2.4 システム運用

学術情報処理センターでは、基幹ネットワークの管理と研究教育用のコンピュータシステムの管理を行っている。管理の内容は、システム管理、利用者情報等の情報管理、及びネットワーク管理に大きく分類することができる。

現在のシステムの中で大きな割合を占めるシステム管理作業は、演習用端末の管理である。演習用システムは、Windows環境とLinux環境を提供し、中でもWindows環境の更新の頻度が特に高い。ほぼ毎週、Windows Update及びウイルス対策ソフトウェアの更新を行っている。

学術情報処理センターでは、佐賀大学の全構成員の利用者IDを提供している。利用者情報の管理は、附属図書館と共同で行われ、全利用者のデータベースへの登録及び各認証システムへの配布を行っている。これらの認証データは、センター内端末及びコンピュータの利用だけでなく、教育用ネットワークの利用や認証の必要な情報システムで利用され、佐賀大学の情報基盤の中心をなすものである。利用者データの発生元である、学生部や任用係との連携が課題となっている。

また、附属図書館と学術情報処理センターが共同で運用する電子図書館システムから提供するデータの保守も行っている。特に、オンラインシラバスシステムの開講データの登録が教務係などから円滑に行える仕組みが必要となっている。

ネットワーク接続を行う情報機器の登録についても、幾つかのサブネットを除いて、学術情報処理センターが行っている。

近年、ネットワークを介した障害が多数発生している。そのため、ネットワークサービスに関連したソフトウェアのバージョン管理と更新作業が、業務の中で大きな位置を占めつつある。そのため、学術情報処理センター内の主要なサーバ類で稼働しているソフトウェア類のバージョン管理システムを構築し運用している。

第3章 学術情報処理センターのシステム

3.1 学術情報システムの構成

学術情報処理センターの高度情報処理システムは、平成14年2月の更新に向け、平成12年11月より仕様策定を開始した。仕様策定の後、入札、技術審査を経て、平成13年9月からは、導入準備作業に入り、平成14年2月一杯を使って旧システムの撤去及び新システムの導入作業を行った。

平成14年2月に導入された新システムの構成を図3.1に示す。システムは、大きく、四つに分かれている。

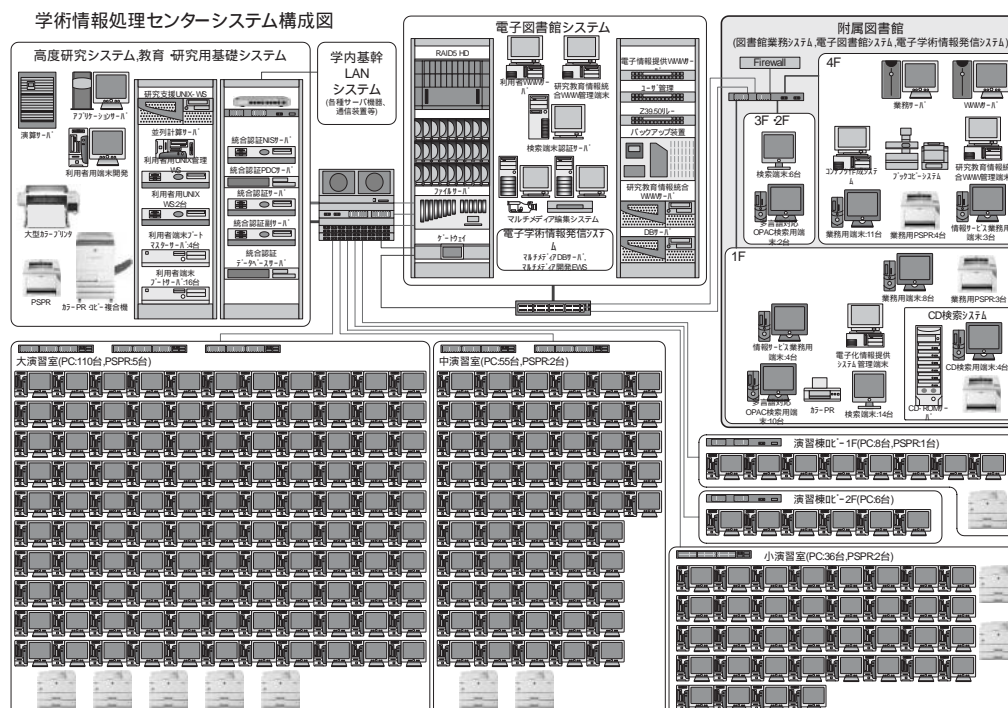


図 3.1: 学術情報処理センターのシステム構成

第一は、教育用システム（第3.2節）である。演習用端末は、ハードディスクを有さず、Windows2000とLinuxの二つのOS(オペレーティングシステム)をリモートのサーバからディスクレスでブート

するシステムを採用している。これにより、管理コストの低減をはかるとともに、システムの安定性を増している。このようなディスクレスの大規模演習用端末システムは、日本で最初の試みであり、全国的な注目を受け、多数の見学者が訪れている。

第二は、一般・研究用システムであり、一般利用用ワークステーション及び演算サーバなどから構成され、教職員の利用に供されている。第三はネットワークシステム(第3.4節)、第四は電子図書館システム(第3.5節)である。ネットワークシステム及び電子図書館システムについては後述する。

これらのシステムでは、サーバ類を GigabitEnter で接続するとともに、端末類を FastEther で接続している。また、光ケーブルを通じた Gigabit Ether Net の基幹 LAN を介して、全学から利用されている。全体のシステムは、24Mbps の専用回線で九州大学を介して SINET に接続するとともに、1.5Mbps の ADSL 回線で商用回線へ接続している。



図 3.2: 大演習室

3.2 教育用システム

高度情報処理システムのうち教育用システムは、本センター内の大、中及び小演習室、さらにセンター内ロビーに設置された約 200 台の端末群、プリンタとそれらのサーバから構成されている。



図 3.3: 演習用端末

多数の演習用端末を常に同じ環境に維持することは、システム運用上の大きな問題である。また、総合大学の場合には、プログラミング環境などで利用される UNIX 系オペレーティングシステム(OS)と、ワードプロセッサなどのビジネスアプリケーション利用などに利用される Windows 系 OS を提供することを求められる。このようなシステムの安定運用技術の開発は、各大学の情報処理センターの大きな課題となっている。

本システムの教育用システムにおいては、各端末は Windows2000 と Linux の二つの OS をディスクレスでブートすることが出来る。つまり、各端末はハードディスクを有しない。ディスクレスでブートすることによって、全端末の環境を一様にするとともに、利用者が誤ってシステムを変更することを防いでいる。また、Windows2000 を利用したインターネット利用やワードプロセッサなどの入門教育から、Linux を

利用したプログラミングまで幅広い情報教育に対応することが可能である。

このような二つの OS を提供できるディスクレスの大規模演習用端末システムは、日本で最初の試みである。そのため、全国的な注目を受け、システム導入直後から多数の見学者が訪れている。

研究・教育に関わる様々な情報のオンライン化に伴い、それらの利用時に必要となる認証の整理が必要となる。本システムでは、Windows2000 と Linux という二つの異なる OS に共通の認証機構を提供するだけでなく、電子図書館機能を始めとする学内で利用される様々なオンライン機能に共通な認証機構を提供するための、統合認証システムを構築している。

オンライン情報の重要性が増す中で、様々な情報システムにおける認証システムの統合が求められている。本システムで導入した統合認証システムは、本学の情報システムの基盤となるものである。

佐賀大学では、情報処理の基礎技術（リテラシ）の習得を全学共通の基礎教育と位置付け、必修科目として指定している。また、全ての教育・研究分野において、情報処理技術は基礎技術となりつつあり、専門教育においてもコンピュータとネットワークの利用が求められている。6000 人を越える学生を有する大学としては、本センターが有する三つの演習室で全学の情報処理関連教育を負担することは非常に厳しくなっている。次節で示すように、本センター内の演習室の空き時間は非常に少ない。演習室数の増加など、施設全体の抜本的改善が不可欠である。

3.2.1 講義一覧及びその受講者数

本センター内の演習室を利用した平成 10 年度から 14 年度までの講義の一覧とその受講者数を示す。他の科目との制約を考慮すると、既に演習室は飽和状態である。特に、大演習室は、情報リテラシ教育以外の専門教育での利用がほとんど不可能な状態となっている。

授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報基礎科目										
情報基礎概論 (C4)(不定期)			8		69		72		73	
情報基礎演習 I(C1)	55		45		60		51		59	
情報基礎演習 I(C2)	44		42		48		45		44	
情報基礎演習 I(C3)	71		70		75		68		68	
情報基礎演習 I(C4)		72		65		75		75		84
情報基礎演習 I(C5)	32		30		35		33		33	
情報基礎演習 II(C)		25		71		45		45		50
情報基礎演習 II(C)		47		67		58		40		
情報基礎演習 II(C)(集中)					40					
情報基礎演習 I(E)a	52		53		54		50		48	
情報基礎演習 I(E)b	52		51		51		53		50	
情報基礎演習 I(E)c	52		52		51		54		52	
情報基礎演習 I(E)d	47		50		52		50		50	
情報基礎演習 I(E)e	52		50		52		50		51	
情報基礎演習 I(E)f	52		47		51		50		51	
情報基礎演習 I(E)g	50			25		16		13		10
情報基礎概論 (T5,T6 クラス A)	81		61		53		53		54	

授業科目名	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報科教育法(不定期)									13	
都市システム論									56	
情報システム演習 I										16
GIS 演習										20
計算機シミュレーション(不定期)										10
合計	103	187	140	160	155	172	90	132	232	137
専門科目(経済学部)										
情報基礎(大学院)									12	
田川ゼミ(2年)										12
プログラミング-a		50								
プログラミング-b		50								
情報基礎	4				7				4	
演習 I			29	29						
演習 IV					29	30				
ゼミ(不定期)		12								
環境法演習(不定期)				10						
フレッシュマンセミナー(不定期)					22					
合計	4	112	29	39	58	30	0	0	16	12
専門科目(理工学部)										
電子計算機 II(数学)	24									
プログラム論(電子)		60		55		68		42		90
電子計算機 I(数学)		40								
プログラミング(数学)				41		38		29		29
プログラム演習(電子)		60		60		68	68		83	
計算機物理 B(物理)	33		68			29		35		35
計算機物理 A(物理)		47		39	41		47		43	
数理文章作成 I(数学)	38		52		33		40		38	
数理文章作成 II(数学)		38		45		34		40		38
シミュレーション数理 学(数理)					39		33			
専門周辺科目			30							
情報数理学					5		5		11	
FORTRAN 演習(電 子)(不定期)	18		12							
建設構造学特別講義 (都市工学)(不定期)		61								
都市工学ゼミ(不定期)	23		12						12	
構造力学特論(不定期)			41							
情報学実験 II(不定期)					35					
情報学実験 II(不定期)					32					
物理卒論生指導(不 定期)					2					
物理学実験 II(物 理)(集中)			8				10			
ガイダンス(物理)(不 定期)			7							

授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
フレッシュマンセミナー (物理)(不定期)		32	41		45		42		43	
説明会 (機械)(不定期)	6									
フレッシュマンセミナー (機械)(不定期)			104		101		94		98	
コンピュータガイダンス (知能情報)(不定期)	125		90		66		74		78	
就職ガイダンス (土木、建設)(不定期)	103									
就職ガイダンス (都市工学)(不定期)		18								
電気電子工学実験 IV(不定期)						8				
情報電子回路特論						26				
化学実験 I 及び II(集中)							23			
数値流体力学 (不定期)								30		
コンピュータ工学 (不定期)									57	
グラフィック数学										50
無機化学実験 a										40
無機化学実験 b										40
合計	370	356	465	240	399	271	413	176	486	287
専門科目 (農学部)										
畜産学実験実習 I(生物生産)a							9			
畜産学実験実習 I(生物生産)b							9			
畜産学実験実習 II(生物生産)	18				10					
経営管理情報演習 (生物生産)a		12		10		12				
経営管理情報演習 (生物生産)b		12								
情報処理学 I(生物生産)		85		73		74		83		70
畜産学演習 I(生物生産)		10		10	11	11		9		9
畜産学演習 II(生物生産)a			10				10			
畜産学演習 II(生物生産)b(不定期)							10		7	
測量学 II(生物生産)		32		33		28				27
生産生物学実験 (生物生産)a(不定期)		53		50		48				
生産生物学実験 (生物生産)b(不定期)		53		50		48				

授業科目名	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
生物学実験(不定期) フレッシュマンセミナー	29						24			
合計	47	257	10	226	21	221	62	92	7	106
全学教育センター										
ネットワーク社会と技術 21世紀のエネルギーと 環境問題(不定期) 情報のしくみ	74		92		101		101		85	
									130	
										55
合計	74		92		101		97		130	140
専門科目(留学生センター)										
日本語II(不定期)					3					
合計					3					

3.2.2 演習時間割

平成12年度 情報処理演習室時間割 [前期] (H12.3.28)

	月	火	水	木	金
8:40	大 後藤:情報基礎概論 (T5&T6 クラス A)1 年 中 瀧川:解析学 III(文教)3 年 小	大 福井:情報基礎演習 I(S1)1年 中 小	大 古川:情報基礎概論 (T5&T6 クラス B)1 年 中 山下(寿):演習 IV(経)4 年 小	大 宮良:フレッシユマンセ ミナー(理・機械) 中 宮良:フレッシユマンセ ミナー(理・機械) 小	大 大隅:情報処理演習 III(文教) 中 小
10:20	大 林田:情報基礎演習 I(T1&T2 機能)1年 中 塚本:計算機物理 A(理・ 物理)3年 小	大 安田:情報基礎(経)大学 院 中 小	大 大元:情報基礎演習 I(C1&C2)1年 中 森田:情報基礎演習 I(C1&C2)1年 小	大 原:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス B)1 年 中 滝澤:情報基礎演習 I(T1&T2 物産)1年 小林:畜産学演習 II(農・ 生) 小	大 津田:情報基礎演習 I(E)1年 中 常盤:情報基礎演習 I(E)1年 帯屋:構造力学特論 II(理・都市工学)大学 院1 小
12:40	大 後藤:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス A)1 年 中 大隅/三原:情報処理演習 II C 小	大 中 小	大 江藤:情報数学(理・ 数)4年 中 小	大 大元:情報基礎演習 I(C1&C2)1年 中 森田:情報基礎演習 I(C1&C2)1年 小	大 安田:情報基礎演習 I(E)1年 中 (山中):情報基礎演習 I(E)1年 小
14:20	大 大串/古賀:情報基礎概論 (T7&T8)1年 小倉:コミュニケーション 数理学(理・数理)3年 中 小	大 中 小	大 佐藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2年 瀧川:コンピュータ I(文 教・数学)2年 佐藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2年 中 小	大 日比野:数理文章作成 I(理・数)2年 40名 瀧川:数学教育特論 II(肩)院1年 中 小	大 藤本:情報基礎演習 I(A1)1年 中 (山中):情報基礎演習 I(E)1年 小
16:00	大 瀧川:情報基礎演習 I(C3)1年 中 小	大 中 小	大 紫/帯屋:情報基礎概論 (T7&T8)1年 瀧川/大隅 環境情報処理 論(文教)2年 中 小	大 石原:理科コンピュータ 演習(文教)1年 瀧川:総合セミナー (肩)4年 4月3回 中 小	大 林(敏):情報基礎演習 I(A2)1年 中 (山中):情報基礎演習 I(E)1年 小

平成12年度 情報処理演習室時間割 [後期](H12.10.3)

		火		水		木		金	
8:40	1校時	大 角縁:情報基礎演習 I(C4)1年	大 掛下/寺本:ネットワーク 社会技術(全学部全学 年)	大 福井:情報基礎演習 II(S1)1年	大 高橋:情報基礎演習 II(T1&T2 物質)1年	大 内田/稻葉:情報処理学 I(農・生)1年	大 津田:情報基礎演習 I(E)	中 中島:情報処理演習 II B(文教)2年	小 川崎:家庭情報処理演習 (育・家)3年
10:20	2校時	大 吉塚:情報基礎演習 II(T1&T2 機能)1年	大 塚本:計算機物理B(理・ 物理)3年	大 小林:畜産学演習 I(農・ 生)3年	大 室園:情報基礎演習 II(T5&T6 クラス B)1年	大 高橋:情報基礎演習 II(T1&T2 物質)1年	大 古川:プログラム論(理・ 電子)2年	中 小倉:数理文章作成 II(理・教)2年	小 川崎:家庭情報処理演習 (育・家)3年
12:40	3校時	大 後藤:情報基礎演習 II(T5&T6 A)1年	大 下村:生産生物学 実験(農・生)2 10/16,23,30	大 瀧川:情報処理演習 I(文 教)1年	大 瀧川:情報基礎演習 I(文 教)1年	大 瀧川:情報基礎演習 I(文 教)1年	大 古川:プログラム論(理・ 電子)2年	中 石原:情報処理演習 I(文 教)1年	小 瀧川:プログラミング演 習 III(育・社文)2年
14:20	4校時	大 石原:情報基礎演習 II(C)1年	大 下村:生産生物学実験 (農・生)2年 3回	大 宮良:情報基礎演習 I(T3&T4)1年	大 宮良:情報基礎演習 I(T3&T4)1年	大 宮良:情報基礎演習 I(T3&T4)1年	大 大甲/古賀:情報基礎演習 I(T7&T8)1年	中 下村:経営管理情報演習 (農・生)3年	小 瀧川:数学教育学特論 II(育)1年
16:00	5校時	大 石原:情報基礎演習 II(C)1年	大 瀧川:身の回りの数学(文 教)1年 2回	大 古川:プログラミング演習 (理・電子)2年	大 古川:プログラミング演習 (理・電子)2年	大 古川:プログラミング演習 (理・電子)2年	大 福井:プログラミング (理・数学)3年	中 山下(秀):演習 IV(経)4 年	小 瀧川:情報基礎演習 II(T7&T8)3年

平成13年度 情報処理演習室時間割 [前期] (H13.3.27)

		月			火			水			木			金		
8:40	1校時	大	和久屋:情報基礎概論 (T5&T6 クラス A) 1年	大		大	福井:情報基礎演習 I(S1)1年	大	宮良:フレッシュコミュニケーション (理・機械)1年	大	宮良:フレッシュコミュニケーション (理・機械)1年	中	大隅:情報処理演習 II(文教)	中	瀧川:コンピュータ演習 I(文教)1年	
10:20	2校時	大	皆本:情報基礎演習 I(T1&T2 機能)1年	大	瀬戸口:SCS	大	古川:情報基礎概論 (T5&T6 クラス B)1年	大	相和:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス B)1年	大	渡辺健:情報基礎演習 I(E)1年	大	原:情報基礎演習 I(E)1年	中		
12:40	3校時	大	塚本:計算機物理 A(理・物理)3年	中	瀧川:フレッシュコミュニケーション (文教)1年	小		中	田端:情報基礎演習 I(T1&T2 物理)1年	中	和田:畜産学演習 II(農・生)	小	安田:情報基礎演習 I(E)1年	中		
14:20	4校時	大	後藤:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス A)1年	大		大	岡島:情報基礎概論 (文教)1年	大	大元:情報基礎演習 I(C1&C2)1年	大	森田:情報基礎演習 I(C1&C2)1年	中	常盤:情報基礎演習 I(E)1年	中		
16:00	5校時	大	大串:情報基礎概論 (T7&T8)1年	中	パソコンの保守作業 (13:00~16:00)	小	江藤:情報数理学 (理・数)4年	小	和田:畜産学実験実習 I(農・生)	小	成:数理工学作成 I(理・数)2年	大	藤木:情報基礎演習 I(A1)1年	中		
		中	小倉:コミュニケーション数理学 (理・数)3年	中	パソコンの保守作業 (13:00~16:00)	小	宮良:情報基礎演習 II(T3&T4)2年	中	和田:畜産学実験実習 I(農・生)	小	古川:情報基礎演習 I(理・数)2年	中	(山中):情報基礎演習 I(E)1年	小	瀧川:プログラミング学習会(文教・数学)3年	
		小	瀧川:情報基礎演習 I(C3)1年	大		大	紫/帯屋:情報基礎概論 (T7&T8)1年	大	古川:情報基礎演習 I(理・数)2年	大	石原:理科学科コンピュータ演習 (文教)1年	中	林(敬):情報基礎演習 I(A2)1年	中	(山中):情報基礎演習 I(E)1年	

平成13年度 情報処理演習室時間割 [後期] (H13.3.27)

		火		水		木		金	
8:40	1校時	大 角縁:情報基礎演習 I(C4)1年	大 掛下/寺本:ネットワーク 社会技術(全学部全学 年)	大 福井:情報基礎演習 II(S1)1年	大	大	大	大	大
10:20	2校時	中 小 吉塚:情報基礎演習 II(T1&T2機能)1年	大 中 小 塚本:計算機物理B(理・ 物理)3年	中 小 和田:畜産学演習I(農・ 生)3年	中 小	中 小	中 小	中 小	中 小
12:40	3校時	大 中 小 後藤:情報基礎演習 II(T5&T6クラス A)1年	大 中 小 パソコンの保守作業 (13:00~16:00)	大 中 小 瀧川:情報処理演習I(文 教)1年	大 中 小	大 中 小	大 中 小	大 中 小	大 中 小 内田/稲葉:情報処理学 I(農・生)1年 川崎:家庭情報処理演習 (育・家)3年 津田:情報基礎演習I(E)
14:20	4校時	大 中 小 石原:情報基礎演習 II(C)1年	大 中 小 パソコンの保守作業 (13:00~16:00)	大 中 小 佐藤:情報基礎演習 I(T3&T4)1年	大 中 小	大 中 小	大 中 小	大 中 小	大 中 小 大串/帯屋:情報基礎演習 II(T7&T8)3年 瀧川:情報処理演習I(文 教)1年
16:00	5校時	大 中 小 石原:情報基礎演習 II(C)1年 瀧川:コンピュータII(文 教)2年	大 中 小	大 中 小 福井:プログラミング (理・数学)3年	大 中 小	大 中 小	大 中 小	大 中 小	大 中 小 瀧川:パソコン学習会(文 教)1年

平成14年度 情報処理演習室時間割 (前期)(H14.4.4)

	月	火	水	木	金
8:40	大 和久屋:情報基礎概論 (T5&T6 クラス A)1 年	大 福井:情報基礎演習 I(S1)1年	大 宮良:フレッシュコミュニケーション(理・機械)1年	大 宮良:フレッシュコミュニケーション(理・機械)1年	大 大隈:情報処理演習 II(E)1年
10:20	中 田端/西河:情報基礎演習 I(T1&T2 機能)1年	中 古川:情報基礎概論 (T5&T6 クラス B)1 年	中 大串:ゼミ(理工・都市工 学)	中 堂園:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス B)1 年	中 渡辺健:情報基礎演習 I(E)1年
12:40	小 只木/福井:計算機物理 A(理・物理)3年 大隈:情報ネットワーク 論(文教)2年	小 瀬戸口:SCS	小 大串:ゼミ(理工・都市工 学)	小 森田:情報基礎演習 I(C2)1年	小 原:情報基礎演習 I(E)1 年
14:20	大 後藤:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス A)1 年	大 岡島:情報基礎概論(文 教)1年	大 江藤:情報数学(理・ 教)4年	大 大元:情報基礎演習 I(C1)1年	大 安田:情報基礎演習 I(E)1年
16:00	中 山下:都市システム論(文 教)3年	中 佐藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2年	中 江藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2年	中 鷹瀬:数理解文章作成 I(理・ 教)2年	中 和田:情報基礎演習 I(A1)1年 (水町):情報基礎演習 I(E)1年
16:00	小 大串/葛:情報基礎概論 (T7&T8)1年	小 佐藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2年	小 紫7葛:情報基礎概論 (T7&T8)1年	小 鷹瀬:数理解文章作成 I(理・ 教)2年	小 中島(道):マルチメディア アを用いた図形処理(文 教)2年
16:00	大 瀧川:情報基礎演習 I(C3)1年	大 紫7葛:情報基礎概論 (T7&T8)1年	大 瀧川:情報基礎演習 I(C3)1年	大 古川:プログラム演習 (理・電子)2年	大 林(敏):情報基礎演習 I(A2)1年 (水町):情報基礎演習 I(E)1年
16:00	中 田川:情報基礎(経済)大 学院1年	中 青木:フレッシュマンゼミ ナー(理・物理)1年	中 瀧川:コンピュータ I(文 教・数学)2年	中 古川:プログラム演習 (理・電子)2年	中 林(敏):情報基礎演習 I(A2)1年 (水町):情報基礎演習 I(E)1年
16:00	小 田川:情報基礎(経済)大 学院1年	小 青木:フレッシュマンゼミ ナー(理・物理)1年	小 瀧川:コンピュータ I(文 教・数学)2年	小 古川:プログラム演習 (理・電子)2年	小 林(敏):情報基礎演習 I(A2)1年 (水町):情報基礎演習 I(E)1年

平成14年度 情報処理演習室時間割 [後期](H14.10.16)

	月	火	水	木	金
8:40	大 角 緑:情報基礎演習 I(C4)1年	大 掛下/寺本:ネットワーク 社会技術(全学部全学 年)	大 福井:情報基礎演習 II(S1)1年	大	大
	中 大隅:計算機シミュレー ション(文教)2年	中 只木:情報のしくみ(全 学部全学年)	中 和田:畜産学演習I(農・ 生)3年	中 中原:数理文章作成 II(理・数)2年 瀧川:コンピュータII(文 教・数学)2年	中 川崎:家庭情報処理演習 (育・家)3年 山下(宗):GIS演習(文 教)3年
	小	小	小 相和:情報基礎演習 II(T5&T6 クラス B)1年	小	小 内田/稲葉:情報処理学 I(農・生)1年
10:20	大 永野/山里:情報基礎演習 II(T1&T2 機能)1年	大	大 瀧川:情報処理演習I(文 教)1年	大	大 山下(秀):情報基礎演習 I(E)
	中	中	中 中島(道):情報処理演習 I(文教)1年	中	中
	小	小	小 山下(宗):情報基礎演習 I(C5)1年	小	小 瀧川:コンピュータ演習 II(文教)1年
12:40	大 村松:情報基礎演習 II(T5&T6 クラス A)1年	大 パソコンの保守作業 (13:00~16:00)	大 宮良:情報基礎演習 I(T3&T4)1年	大 大甲/帯屋/柴:情報基礎 演習I(T7&T8)1年	大 帯屋/大甲/柴:情報基礎 演習II(T7&T8)2年 帯屋/大甲/柴:情報基礎 演習I(T7&T8)1年
	中	中 パソコンの保守作業 (13:00~16:00)	中 取出:測量学II(農・生)3 年	中	中
	小	小	小 宮良:情報基礎演習 I(T3&T4)1年	小	小 鯉川:無機化学実験(理・ 機能)2年
14:20	大 石原:情報基礎演習 II(C)1年	大	大	大 福井:プログラミング (理・数学)3年	大
	中 瀧川:情報システム演習 I(文教)2年	中	中 石川:グラフィック数学 (理・数学)3年	中	中
	小 鯉川:無機化学実験(理・ 機能)2年	小	小	小	小
16:00	大 田川:ゼミ(経済)2年	大	大	大	大

3.3 一般利用・研究用システム



図 3.4: 演算用サーバ

一般利用・研究用システムは、メールの利用や文書作成及び小規模数値計算を行う UNIX サーバ、中規模数値計算を行う演算用サーバ(図 3.4)、特殊なソフトウェアを有する端末等から構成されている。従来は、教育用システムと一般利用・研究用システムを区別し、一般利用・研究用システムを主として教職員用と定義してきた。本システムから、二つのシステムの境界を無くし、全利用者が一般利用・研究用システムを利用することができるようになった。

一般利用・研究用の UNIX サーバは、二つの CPU を有し、Solaris 環境を提供している。テキスト編集ソフトウェア、文書整形ソフトウェアなどの日常的作業から、FORTRAN や

C を使った小規模数値計算までの環境を提供している。

中規模数値計算環境として、二つの演算サーバを用意している。一つは、一般利用 UNIX 環境と同じ Solaris 環境を提供する 2CPU のシステムであり、FORTRAN と C/C++ のコンパイラを有する。もう一つは、Digital UNIX 環境を提供する 4CPU の高速演算システムである。

3.4 ネットワークシステム

10Base-5、FDDI、Fast Ether Net と高速化を図って来た基幹 LAN システムは、平成 13 年 9 月に、1Gbps の Gigabit Ether Net へと更新された。これに伴い、全学に対してファイアウォール機能を導入してネットワークセキュリティの向上を図るとともに、学生及び教職員が持ち込むモバイル PC を接続できるような教育用ネットワークを全学の教室及び会議室に設置することとした。

基幹 LAN システムは、本センターに置かれた主たるルータと、各建屋に設置されたスイッチを光ファイバで接続し、1Gbps の転送速度で結ぶものである。これにより、動画や音声などを含むマルチメディア通信を利用した、今後の研究・教育環境に対応することが可能である。

学内と学外との間には、ファイアウォール装置を設置し、学外からの不正アクセスへの対策を行っている。また、電子メールの添付ファイルに寄生するウイルスへのフィルタ機能を実装している。

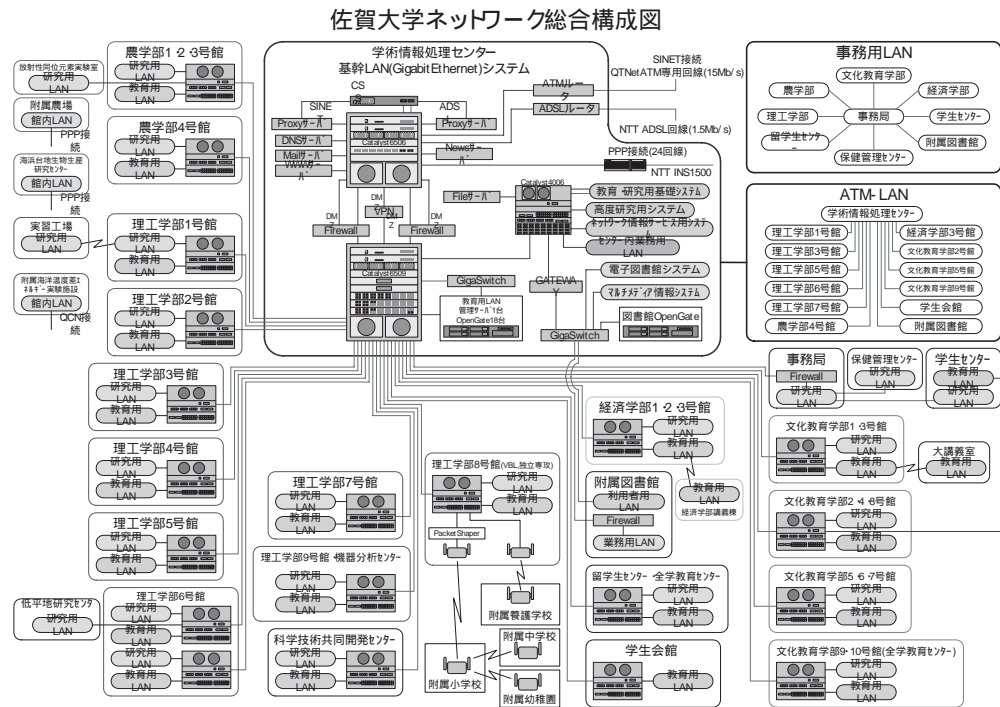


図 3.5: キャンパス情報ネットワークシステム構成

3.5 電子図書館システム

3.5.1 はじめに

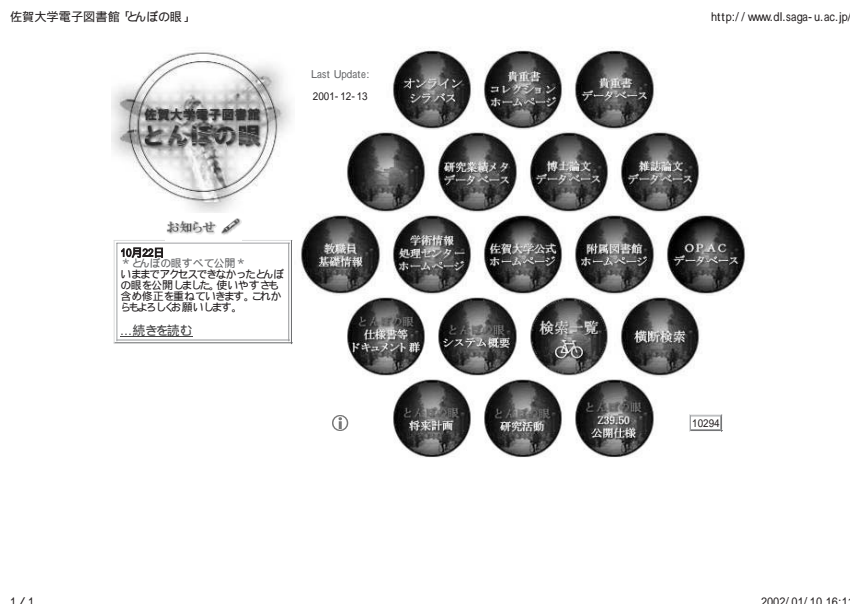
学術情報処理センターへの改組に当たって、新たな業務として電子図書館機能の整備充実を行うこととした。この電子図書館機能のためのシステムは、平成13年3月に導入された。

学術情報流通における媒体の多様化、世界的規模のネットワーク化の急速な進展の中で、大学においては研究教育支援のための情報提供機能を強化した電子図書館が求められている。また同時に電子図書館は、学内で生成される学術情報を積極的に外部に提供するための機能も有していなければならない。電子図書館システムは、これらの機能を有し、かつ資料の物理的形態及び所在場所の如何にかかわらず、共通のユーザインターフェイスによる一元的な情報の提供を目指した統合型電子図書館システムを構築することを目的とする。

3.5.2 システムの全体構成

本システムは、紙媒体を主体として提供されてきた学術情報を電子化し広く提供するための「電子化情報提供システム」、学生および教職員が生成する様々な学術情報を統合して保持し提供する

図 3.6: 「とんぼの眼」佐賀大学電子図書館ホームページ



ための「研究教育用情報統合システム」、及びそれらのネットワーク基盤となる「電子図書館基盤システム」から構成し、既存のセンターシステム及び図書館システムを補完する。

3.5.3 電子化情報提供システム

電子化情報提供システムは、データベースサーバシステム、電子化情報提供 WWW サーバシステム、コンテンツ作成システム、Z39.50 リレーシステム、検索端末などからなる。本システムは、附属図書館所蔵の図書及び雑誌に関する目録データベース (OPAC データベース、本学の各部署が発行する紀要などに掲載された雑誌論文データベース、本学で取得された学位論文データベース、附属図書館が所蔵する貴重書データベース、本学教員の研究活動に関する研究業績データベース及び教官基礎情報データベースから構成されている。

これらのシステムは、Z39.50 という規格によって、統一的网络インターフェイスが用意され、世界中からのアクセスに対応することが出来る。

また、データベースを Web インターフェイスを介して検索するための、検索端末を附属図書館内に設置し、利用者に提供している。

3.5.4 研究教育用情報統合システム

研究教育用情報統合システムは、ファイルサーバ、研究教育情報統合 WWW サーバシステム、利用者 WWW サーバシステムなどからなる。本システムでは、学生及び教職員が、教育・研究のための情報を蓄積保持し、WWW を介して公開する環境を提供する。特に、講義のシラバス及び

各教員の研究成果をデータベース化しオンライン公開することを支援するとともに、電子化情報提供システムと連動した検索機能を提供する。

3.5.5 データベース化支援

本システムでは、学内で生成される様々な学術情報のオンラインデータベース化を支援する。平成13年度は、本学農学部において栽培されている植物に関する遺伝情報のデータベース化作業を行っている。

また、既にデータベース化された情報を利用した新しい形の情報提供サービスに関する研究開発を行っている。

3.6 教育用情報基盤システム

Location of Wireless LAN Stations

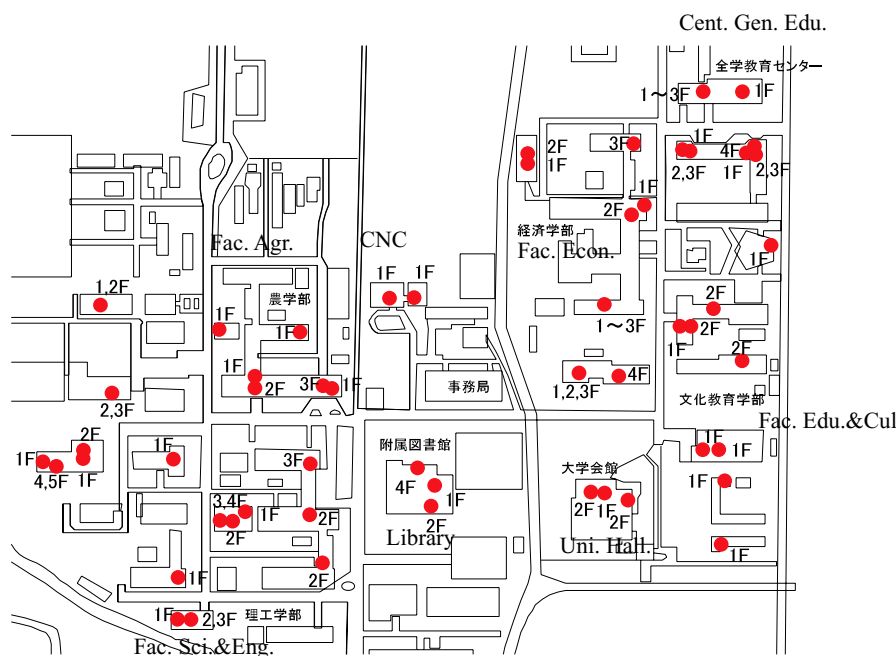


図 3.7: 無線 LAN 装置設置箇所

研究・教育のあらゆる分野における情報処理技術の利用によって、コンピュータとネットワークの利用への需要は大きくなっている。モバイルPCの高性能化及び低価格化を考えると、演習用端末を充分数設置するよりも、利用者が持ち込むモバイルPCを許容するネットワーク構成を検討することが現実的である。

本センターでは、理工学部知能情報システム学科と協力し、モバイルPCの利用時に認証を行うシステム Opengate を開発した。平成 14 年 2 月に、全教室を含む学生用環境に情報コンセントを設置し、全学をカバーできる無線 LAN 環境を構築し、Opengate システムを稼働させた(図 3.7)。これにより、全学の教室及び会議室において、利用者の持ち込むモバイル PC をネットワークに接続できるシステムを整備した。更に、全学的な運用を遠隔に行うために、Opengate システムをディスクレスで管理運用する手法の開発を行った。

3.7 建物の状況

学術情報処理センターは、旧電子計算機室の建物に、平成 5 年に演習室部分を追加したものである。本章で述べたように、演習用システム、一般利用・研究用のコンピュータシステム、ネットワークシステム及び電子図書館システムなどの多くの機器の運用を行っている。各種サーバをラックマウント型にするなどで、収納方法を改善しているが、収納場所が飽和状態であるとともに、電源容量の限界に近付いている。

また、情報処理技術の教育がリテラシだけでなく専門教育にまで広がっている状況に対して、200 台程度の演習用端末の演習室では明らかに不足である。

また、学術情報処理センターへの改組に伴って、定員 2 に流用定員 2 を加えて教員 4 名の組織となっている。現在の建物では、これら 4 名の教員の居室を確保するのが手一杯であり、研究用スペースはもちろん、指導をしている卒業研究生及び大学院生の居室、議論や打ち合せの場所の確保もできない状況である。

佐賀大学の情報基盤の一層の整備充実には、建物の拡大が不可欠である。



図 3.8: コンピュータ室

第4章 学術情報処理センターにおける教育活動

4.1 センター教員の教育活動

学術情報処理センターの教員は、関連学部 of 非常勤あるいは実質的な担当者として、学部教育にも携わっている。また、関連分野の大学院教育について、専任教員として指導を行っている。

平成 12 年度の講義担当状況			
職・氏名	講義名	時期	開講対象
教授・只木進一	情報のしくみ	後期	全学教育センター主題科目
	プログラミング概論 I	前期	理工学部知能情報システム学科 2 年
	プログラミング概論 II	後期	理工学部知能情報システム学科 2 年
	計算の理論 I	前期	理工学部知能情報システム学科 3 年
	知識科学特論	前期	工学系研究科情報科学専攻博士前期課程
	卒業研究	通年	理工学部知能情報システム学科
	研究指導	通年	工学系研究科情報科学専攻博士前期課程
助教授・福井市男	情報数理学	前期	理工学部数理科学科 4 年
助手・江藤博文	情報数理学 (補助)	前期	理工学部数理科学科 4 年
平成 13 年度の講義担当状況			
職・氏名	講義名	時期	開講対象
教授・只木進一	プログラミング概論 I	前期	理工学部知能情報システム学科 2 年
	プログラミング概論 II	後期	理工学部知能情報システム学科 2 年
	非線形科学特論	前期	工学系研究科知能情報システム学専攻博士前期課程
	複雑系の科学特論	後期	工学系研究科エネルギー物質科学専攻博士後期課程
	卒業研究	通年	理工学部知能情報システム学科、実質担当
	研究指導	通年	工学系研究科情報科学専攻博士前期課程
	研究指導	通年	工学系研究科知能情報システム専攻博士前期課程
研究指導	通年	工学系研究科エネルギー物質科学専攻博士後期課程	

助教授・福井市男	情報数理学	前期	理工学部数理科学科4年
助教授・日永田泰啓	情報学特別講義(補助)	後期	理工学部知能情報システム学科1年、実質担当
	卒業研究	通年	理工学部知能情報システム学科、実質担当
	研究指導	通年	工学系研究科情報科学専攻博士前期課程
	研究指導	通年	工学系研究科知能情報システム専攻博士前期課程
助手・江藤博文	情報数理学(補助)	前期	理工学部数理科学科4年
平成14年度の講義担当状況			
教授・只木進一	プログラミング概論I	前期	理工学部知能情報システム学科2年
	プログラミング概論II	後期	理工学部知能情報システム学科2年
	計算機物理学A	前期	理工学部物理科学科3年
	情報のしくみ	後期	全学教育科目
	計算科学特論	前期	工学系研究科知能情報システム学専攻博士前期課程
	卒業研究	通年	理工学部知能情報システム学科、実質担当
研究指導		通年	工学系研究科知能情報システム専攻博士前期課程
		通年	工学系研究科エネルギー物質科学専攻博士後期課程
		通年	工学系研究科エネルギー物質科学専攻博士後期課程
助教授・福井市男	情報数理学	前期	理工学部数理科学科4年
	計算機物理学A	前期	理工学部物理科学科3年
助教授・日永田泰啓	情報学特別講義	後期	理工学部知能情報システム学科1年
	情報のしくみ	前期	全学教育科目
	情報物理特論	後期	工学系研究科知能情報システム学専攻博士前期課程
	卒業研究	通年	理工学部知能情報システム学科、実質担当
	研究指導	通年	工学系研究科知能情報システム専攻博士前期課程
	研究指導	通年	工学系研究科エネルギー物質科学専攻博士後期課程
助手・江藤博文	情報数理学(補助)	前期	理工学部数理科学科4年

第5章 学術情報処理センターにおける研究活動

5.1 研究活動の概要

システム管理技術

大学における情報教育システム、研究支援システム及びネットワークシステムは、多様で多数の利用者が様々な目的で利用するシステムであり、業務用システムなど目的の定まったシステムとは管理手法が大きく異なる。また、大学ではこうしたシステムを管理するセンター部門の人員は著しく小人数である。そこで、小人数で多様で多数の利用者を擁するシステムを運用するために、管理項目の整理、システム管理者や事務職員更にシステム運用を支える非常勤スタッフへの仕事の配分、業務の自動化などを実践を通じて研究する。

また、増え続ける情報システムに対応して、全学的に均一な統合認証環境を提供する認証システムの構築及び認証技術の研究開発を行う。

ネットワーク運用技術

電子メールなどのネットワーク上のサービスを多様な利用者が容易に利用できるような仕組みの開発、ネットワーク利用の際のセキュリティ確保や認証技術、WEB を利用した情報共有などの要素技術の開発及び利用調査を行う。

特に、利用者が持ち込むノート型パーソナルコンピュータの利用に対応できる、全学的な共通情報基盤の構築、安全確保などの、新しい情報基盤構築の研究開発を行う。

電子図書館及び学術情報システム

図書館目録情報など大学の含む研究・教育関係の情報をオンラインデータベース化し、WEB 等を介して容易に検索が可能な環境を構築するとともに、各情報相互の連携をはかり、学術情報の総合的環境を構築する。

交通流のシミュレーション及びオンライン交通流解析システム構築

追従模型やセルオートマトン模型など交通流の数理模型に対して、解析的手法及びシミュレーションを通じて、交通流の性質、特に渋滞相への転移を解明する。また、シミュレーション結果と

実測データを比較するために、交通流の実測データをオンラインで行うシステムの開発を行う。

数値繰り込み群とその応用

数値くりこみ群の方法と呼ばれる比較的新しい方法がある。低次元モデルに対し提案されたこの方法を、高次元モデルに対しても使えるように拡張する研究を行う。この研究と並行して、同じ方法を使って (必要なら方法を拡張して) 確率モデル (非平衡統計力学モデル) の研究を行う。

地球観測データの検索システム

地球観測データはインターネット上に数多く存在しているが、専門的な知識を持った利用者を対象としている。そこで専門的な知識の無い一般の利用者が地球観測データの検索が可能なシステムの開発を行った。また検索の高速化のためのネットワーク経路制御手法の開発を行った。

5.2 研究業績一覧

平成12年から14年9月までの学術情報処理センター教員の研究業績一覧

5.2.1 著書

- 只木進一、「脳科学大辞典」、甘利俊一、外山敬介編集 (朝倉書店, 2000)、「数値シミュレーションの基本」を分担。
- 江藤博文、「計算機リテラシー [改定版]」、佐賀大学全学教育センター情報処理部会編集 (ムイスリ出版, 2000)、「Java の使い方」を分担。

5.2.2 学術論文

- E.Hanada, Y.Watanabe, Y.Nose, *Electromagnetic interference with electronic medical equipment induced by automatic conveyance systems*, *Journal of medical Systems* Vol. **24**, No. 1 (2000) pp. 11 - 20.
- E.Hanada, T.Takano, Y.Antoku, K.Matsumura, Y.Kenjo, Y.Watanabe, Y.Nose, *Advantages of low output mobile communication systems in hospitals*, *Journal of Medical Systems* Vol. **24**, No. 2 (2000) pp. 53 - 59.
- E.Hanada, Y.Watanabe, Y.Nose, *A screening gate to prevent entry of mobile telephone handsets in the speaking/stand-by mode into prohibited and restricted areas*, *IEEE Trans. on Information Technology in BioMedicine* (Accepted).

- S. Tadaki, M. Kikuchi, Y. Sugiyama and S. Yukawa, *Noise Induced Congestion in Coupled Map Optimal Velocity Model of Traffic Flow* in Y. Suzuki *et al. Soft Computing in Industrial Applications* (Springer, London, 2000).
- S. Tadaki, M. Kikuchi, Y. Sugiyama and S. Yukawa, *Congestion in Multi-lane Roads with Coupled Map Traffic Flow Model* in Y. Hiwatari, Y. Oyanagi, Y. Okabe and H. Takayama *Proceedings of The 5th International Conference on Computational Physics (Progress of Theoretical Physics Supplement No.138)* (2000).
- M. Kikuchi, Y. Sugiyama, S. Tadaki and S. Yukawa, *Asymmetric Optimal Velocity Model for Traffic Flow* in Y. Hiwatari, Y. Oyanagi, Y. Okabe and H. Takayama *Proceedings of The 5th International Conference on Computational Physics (Progress of Theoretical Physics Supplement No.138)* (2000).
- M. Kikuchi, Y. Sugiyama, S. Tadaki and S. Yukawa, *Congestion in Multi-lane Coupled Map Traffic Flow Model* in M. Tokuyama and H. E. Stanley *Statistical Physics* (AIP, 2000).
- K. Watanabe, A. Takeda and S. Tadaki, *A Universal E-mail Environment - WebMailer: Web Based E-mail Client Software Supporting IMAP4 Protocol* in *Proc. International ICSC Symposium on Interactive and Collaborative Computing (ICC'2000)* (2000).
- 渡辺健次、竹田暁彦、只木進一、「IMAP4に対応したWebベース電子メールクライアントWebMailerの開発」、*学術情報処理研究* No.4 (2000) 35.
- 江藤博文、山本高広、新井康平、「空間特徴による画像検索のためのインデクシング」、*日本写真測量学会誌* Vol.39, No.3 (2000) 14-20.
- T. Uchida and S. Tadaki, *Congested Flow Induced by Noise in Headway Measurements*, *Journal of Physical Society of Japan* Vol. **70**, No. 6 (2001) pp. 1842 - 1848.
- 渡辺義明、渡辺健次、江藤博文、只木進一、「利用と管理が容易で適用範囲の広い利用者認証ゲートウェイシステムの開発」、*情報処理学会論文誌* Vol.42, No.12 (2001) 2802-2809..
- 只木進一、江藤博文、渡辺健次、渡辺義明、「公開端末及び利用者移動端末の認証システムとそのディスクレスマシンによる運用」、*学術情報処理研究* No.5 (2001) 15-20.
- Y. Hieida, K. Okunishi, Y. Akutsu, *Anisotropic antiferromagnetic spin chains in a transverse field: Reentrant behavior of the staggered magnetization*, *Phys. Rev.* **B64** (2001) 224422-1 – 224422-6.
- E. Hanada, K. Kodama, K. Takano, Y. Watanabe and Y. Nose, *Possible electromagnetic interference with electronic medical equipment by radio waves coming from outside the hospital*, *Journal of Medical Systems* Vol. **25**, No. 4 (2001) pp. 257 - 267.
- E. Hanada, Y. Antoku, K. Matsumura, T. Makie, M. Harada, K. Takano, Y. Kenjo, M. Kobayashi, R. Inoue, T. Yamanaka, N. Kinukawa, Y. Watanabe and Y. Nose, *Merits of*

- duplicate LAN cabling in hospitals*, *Journal of Medical Systems* Vol. **25**, No. 6 (2001) pp. 367 - 371.
- E. Hanada, K. Takano, H. Mishima, K. Kodama, Y. Antoku, Y. Watanabe and Y. Nose, *Possibility of electromagnetic interference with electronic medical equipment by residual magnetization in a building with a steel structure* IEEE EMC Society Newsletter **189** (2001) 15-19.
 - E.Hanada, K.Takano, Y.Watanabe and Y.Nose, *Shielding capacity of fabrics and metal-sprayed wooden board against 1 to 2.45GHz radio waves*, *Biomedical Instrumentation & Technology* (2001) in press.
 - 只木進一「高速道路交通流の実測データと二車線模型」*応用数理* 12 Vol. **2**, No. (2002) pp. 17 - 25.
 - S. Tadaki, K. Nishinari, M. Kikuchi, Y. Sugiyama and S.Yukawa, *Observation of Congested Two-lane Traffic Caused by a Tunnel*, *J. Phys. Soc. Japan* Vol. **71**, No. 9 (2002) pp. 2326 - 2334.
 - S. Tadaki, K. Nishinari, M. Kikuchi, Y. Sugiyama and S.Yukawa, *Analysis of Congested Flow at the Upper Stream a Tunnel*, *Physica A* in press.
 - 江藤博文、只木進一、渡辺健次、渡辺義明「新しい教育用情報基盤の実現に向けて～認証システムをベースとしたキャンパス規模のオープンネットワーク～」、*学術情報処理研究* No. 6 (2002) 13-20.
 - K. Takatsukasa, S. Matsufuji, Y. Watanabe, N. Kuroyanagi, N. Suehiro, *Ternary ZCZ sequence sets for cellular CDMA systems*, *IEICE Trans. Fundamentals* Vol. **E85-A**, No. 9 (2002) pp. 2135 - 2140.
 - E.Hanada, Y.Hoshino, H.Oyama, Y. Watanabe, Y.Nose, *Negligible electromagnetic interaction between medical electronic equipment and 2.4 GHz band wireless LAN*, *Journal of Medical Systems* Vol. **26**, No. 4 (2002) pp. 301 - 308.
 - E.Hanada, K.Takano, Y.Antoku, K.Matsumura, Y.Watanabe, and Y.Nose, *A practical procedure to prevent electromagnetic interference with electronic medical equipment*, *Journal of Medical Systems* Vol. **26**, No. 1 (2002) pp. 61 - 65.

5.2.3 資料・解説・論説・研究報告等

- 渡辺健次、只木進一、江藤博文、渡辺義明、「利用者認証と利用記録機能を実現するゲートウェイシステム Opengate の開発」、*信学技報* IN-99-95, TM99-61, OFS99-48 (2000-01).
- 只木進一、菊池誠、杉山雄規、湯川諭「交通流の科学」*日本物理学会誌* Vol. **55**, No. 3 (2000) pp. 166 - 171.

- 渡辺健次、竹田暁彦、只木進一、「情報処理教育における統一した電子メール利用環境の実現」、信学技報 ET99-96 (2000-3).
- 安田伸一、木村伸子、福井市男、只木進一、「オンライン・シラバス」、学術情報処理研究 No.4 (2000) 105.
- 江藤博文、渡辺健次、只木進一、渡辺義明、「センターの利用者管理を支援する Web ベース統合環境」、学術情報処理研究 No.4 (2000) 111.
- 江藤博文、只木進一、「WEB ベース講義支援システムの開発」、情報処理学会研究会報告 2001-DSM-21 (2001) 25-30.
- 松原義継、只木進一、「Web ブラウザを用いた DNS 管理システムの開発」、情報処理学会研究会報告 2001-DSM-21 (2001) 31-36.
- 日永田泰啓、只木進一、安田伸一、渡辺健次、「オンライン・シラバスの出力システムの開発」、学術情報処理研究 No.5 (2001) 57-60.
- 安田伸一、木村伸子、福井市男、只木進一、「佐賀大学電子図書館システム『とんぼの眼』」、学術情報処理研究 No.5 (2001) 81-86.
- 江藤博文、只木進一、「Web ベースネットワーク運用システムの開発」、情報処理学会研究会報告 2001-DSM-24 (2001) 25-30.
- 江藤博文、只木進一、「UNIX 環境と Windows 環境を提供可能な教育用ディスクレス端末システム」、情報処理学会研究会報告 2002-DSM-25 (2002) 19-23.
- 江藤博文、渡辺健次、只木進一、渡辺義明、「全学的な共通情報アクセス環境のための統合認証システム」、情報処理学会研究会報告 2002-DSM-27 (2002) 31-36.

5.3 共同研究・研究費受け入れ状況

5.3.1 平成12年、13年及び14年の共同研究

研究テーマ	共同研究相手先
結合写像型交通流模型	三重短期大学、大阪大学、東京大学、名古屋大学
交通流実測データの解析	龍谷大学、三重短期大学、大阪大学、東京大学、岐阜経済短期大学、名古屋大学
交通流の数値モデルに基づくシミュレータ開発とデータベース構築	三重短期大学、名古屋大学、Gerhard Mercator Universität Duisburg (ドイツ)
二車線高速道路シミュレーションと実測データ解析	龍谷大学
交通流の数値的研究とシミュレータの開発、交通流データベースの構築及び、環境負荷を軽減する交通管制の適正化の研究	名古屋大学、三重短期大学、愛知大学、中日本自動車短期大学、大阪大学、龍谷大学、東京大学、高エネルギー加速器研究機構、岐阜経済短期大学
数値くりこみ法の高次元化の研究	新潟大学、大阪大学、神戸大学、東京工業大学
数値くりこみ法の非平衡確率モデルへの応用の研究	東京工業大学

5.3.2 研究費受け入れ状況

平成12年度及び14年度(9月まで)の学外からの研究費受け入れ状況をまとめる。

費目	平成12年度件数	平成13年度件数	平成14年度件数
科学研究費補助金	1件	1件	2件
奨学寄付金	2件	2件	1件
産学連携等研究費			1件

第6章 学術情報処理センターの教員組織

6.1 教員配置状況

職名	氏名	専門分野等
センター長・教授(併)	渡辺義明	システム管理技術、医療情報システム、神経回路網
副センター長・教授	只木進一	システム管理技術、学術情報システム、情報科学、統計力学
助教授	福井市男	情報処理教育、素粒子・原子核理論
助教授	日永田泰啓	学術情報システム、統計力学
助手	江藤博文	システム管理技術、衛星画像処理

6.2 採用・昇任の手順・基準

6.2.1 教員人事の基準

学術情報処理センター（以下センター）は、通常の学部運営とは様々な点で異なっており、その点に考慮した人事方針を取っている。

まず、センターは大学の全構成員と係わる学内共同利用の施設であり、教員は全学の教育研究に必要な多くの業務を維持・発展させる任務がある。センターに関連する情報技術は進歩が極めて早いため、常に新規の研究開発調査が必要である。そのため、常に新しい技術に対して意欲的な人員を配置を行う必要がある。同時に、教員組織が小さいセンターにおいて人事を停滞させないため、外部との人事交流が不可欠である。

従って、教員の選考に当たっては、業務を担う意欲を持つか否かを判断するとともに、並行して研究業績を上げることができる人材であるかを判断する。また、業績としては、論文以外にもシステム管理等の実績も評価する。ただし、人事交流の可能性が考慮できるよう、関連学部との間に基準の極端な格差は避ける配慮を行っている。

現在の教員構成は、情報科学・情報工学及びコンピュータを主要な研究手段とする関連分野を専門とする教員から構成されている。出身分野及び出身大学は全て異なり、開放的な人事構成となっている。

6.2.2 教員人事の手順

教員の採用及び昇任の人事手順は以下の通りである。センター運営委員会（以下運営委員会）が学部教授会相当であるとの基本的立場で人事を扱う。

1. 人事の必要があるとセンター長が判断したときには、運営委員会に人事小委員会の設置を提案する。
2. 人事小委員会において人事方針を議論し、具体的な候補の選出を行う。この際には上記の基準に照らして判断を行う。
3. 運営委員会では説明を受け質疑を行い、問題が無ければ次回の運営委員会でセンター規程に則り投票を行う。

第7章 学術情報処理センターの事務機構

学術情報処理センターの組織を図 7.1 に示す。学術情報処理センターは、全学の教育・研究用コンピュータ及びネットワークシステムを運用するため、教員組織の他、技術的支援を行う技術専門職員及び技官、電子図書館システムの研究開発を支援する研究支援推進員及び日常的な補佐を行う技術補佐員からなる組織を有している。

図 7.1: 学術情報処理センターの組織



本センターが運営する電子図書館システムは、そのコンテンツ整備において附属図書館と密接な連携を持っている。そのため、附属図書館学術情報係の係長及び主任を本センター併任とし、円滑な運用を図っている。また、基幹 LAN システムは本学の事務組織にも利用されている。そのため、総務部総務課情報処理係の事務官も本センター併任として、連絡を密にしている。

第8章 学術情報処理センターにおける国際交流

8.1 海外からの訪問者

平成12年及び13年の海外からの本センターへの訪問者

見学日	見学者	人数
平成12年		
6月27日	北京工業大学学長助理他	6
7月6日	安東大学(大韓民国)学生	17
8月3日	木浦大学校(大韓民国)学長他	3
9月28日	安東大学(大韓民国)職員(研修者受け入れ)	4
10月12日	中国農業大学副学長他	4
12月8日	ハノイ農業大学(ベトナム社会主義共和国)	3名
12月20日	安東大学(大韓民国)	3名
平成13年		
2月9日	平成12年度一般特設「通信線路保全技術」研修者	10名
7月16日	浙江工程学院元院長(中華人民共和国)他	2名
8月1日	オートアルザス大学(フランス)オリピエ・エベルレ博士	1名
8月9日	フジエンカトリック大学(台湾)学長他	4名
10月1日	北京工業大学(中華人民共和国)常務副学長他	6名
10月16日	国際協力事業団研修生(インドネシア共和国)	11名
平成14年		
7月4日	連雲港市友好代表団(中華人民共和国)他	7名
10月23日	国際協力事業団研修生(インドネシア共和国)	12名

8.2 学術情報処理センター教員の海外渡航及び国際会議参加

氏名	事項	場所・期間
只木進一	Interfaces Pulses and Waves in Nonlinear Dissipative Systems (RIMS Project 2000 <i>Reaction-diffusion systems: theory and applications</i>) にて招待講演	京都, 2000/8/28-31

Conference on Computational Physics 2000 にて二件発表	Gold Coast (Australia), 2000/12/3 - 8
国際協力事業団によるインドネシア共和国に対する「情報技術及び高度教育行政」 研修コース設置のための調査	Jakarta, Bandung, Surabaya, Jogjakarta (Indonesia), 2001/8/26 - 9/4
Workshop on Traffic and Granular Flow '01 にて招待講演及び 4 件発表	名古屋, 2001/10/15 - 17
APCTP International Symposium on Slow Dynamical Processes in Nature に て発表	Seoul (Korea), 2001/11/25 - 27
国際協力事業団によるインドネシア電気 系ポリテクニク教員養成計画 (SPEET Project) へ参加	Surabaya (Indonesia), 2002/3/10-3/22
	Surabaya (Indonesia), 2002/7/28-8/10
10th International Training Course on Electronic Engineering Education にて 講義	Surabaya (Indonesia), 2002/8/8
Conferene on Computational Physics 2002 にて発表	San Diego (USA), 2002/8/25- 8/30

8.3 国際協力事業への参加

国際協力事業団 (JICA) によるインドネシア共和国に対する支援事業である「情報技術及び高等教育行政」研修コースが、平成 13 年度より 5 年間の計画で、佐賀大学で開始された。平成 13 年 8 月に研修開始のための事前調査が行われ、本センターの只木教授が科学技術共同開発センターの新井センター長とともに、8 月 26 日から 9 月 4 日まで、インドネシア共和国を訪問し、各大学の情報基盤整備の状況及び研修への要望の調査を行った。

平成 13 年度の研修は平成 13 年 10 月 9 日から 26 日まで、11 名の研修生を迎え、科学技術共同開発センター研修室を中心に行われた。本センターからは渡辺センター長、只木教授及び木村学術情報係長が講師として参加した。また、10 月 16 日には、研修生が本センターの施設を見学した。

平成 14 年度の研修は、平成 14 年 10 月 7 日から 25 日まで、12 名の研修生を迎えて行われた。本センターからは、平成 13 年度と同様に、渡辺センター長、只木教授及び木村学術情報係長が講師として参加した。また、10 月 23 日に、研修生が施設見学に訪れた。

また、JICA によるインドネシア電気系ポリテクニク教員養成計画 (SPEET Project) に対しても、只木教授が参加している。本プロジェクトは、インドネシア国内のポリテクニクにおいて、教員の資質向上及びカリキュラム編成を支援するプロジェクトである。平成 14 年 3 月及び 8 月の 2 度にわたり、スラバヤ電子工学ポリテクニクを訪問し、新カリキュラム編成の指導を行った。また、8 月の訪問時には、スラバヤ電子工学ポリテクニクが主催する東南アジアのポリテクニク教員に対する情報技術セミナーで講師を勤めた。

更に、SPEET Project の一環として、平成 14 年 10 月から 10ヶ月の予定で、スラバヤ電子工学ポリテクニク教員 (Ferry Astika Saputra 氏) を受け入れ、ネットワーク運用技術の研修を行っている。

第9章 学術情報処理センターと社会との連携

学術情報処理センター教員の学外活動 (2000 年度及び 2001 年度)		
氏名	事項	期間など
渡辺義明	佐賀県産業教育審議会委員	1997.7-
	九州地域研究ネットワーク協会理事	1997.4-
	佐賀県情報発信 SAGA 運営委員会委員	1998.6-1999.3
	佐賀県中核機能整備検討委員会委員	1998.6-1999.3
	財団法人久留米・鳥栖地域技術振興センター技術開発専門委員	1998.6-
	佐賀県高度情報化推進委員会ソフトウェアコンクール審査委員長	1998,1999,2000.9,2001.10
	九州大学大型計算機センター情報ネットワーク協議会委員	1999.4-
	佐賀県個人情報保護制度懇話会委員	2000.9-2001.3
	コンピュータと生活, 佐賀県立生涯学習センター主催さがトレンドセミナー講師	2000.7
	学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議委員	2001.8-2002.3
	日本エム・イー学会九州支部評議員	
	佐賀県 IDC 基本調査検討委員会委員	2002.6-2003.3
	学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議委員	2002.4-2004.6
	九州大学学術情報基盤センター全国共同利用運営委員会委員	2002.5-2004.3
只木進一	京都大学大型計算機センタープログラム相談員	1990.4-
	佐賀県地域産業支援センターベンチャー支援相談員	2001-
江藤博文	KARRN(九州地域研究ネットワーク) 協会幹事	1993.9-
	佐賀県教育センターインターネットゼミ講師	1997.1
	佐賀県企画局情報システム課インターネット管理者技術講習会講師	1997.2
	国立療養所東佐賀病院附属看護学校非常勤講師	1997.4-
	(情報科学 (3 年)、ワープロ、パソコン指導 (1 年) を担当)	

氏名	事項	期間など
	世界・炎の博覧会「WWW等による佐賀大学等ホームページ検索および地球環境観測衛星データ検索」出展	1997.6-1997.10
	九州航空宇宙開発推進協議会「仮想・九州地球観測情報センター」運用	1999.1-
	佐賀県高度情報化推進協議会インターネット研究会主催パソコン・インターネット・IT講習会講師	2000.11
センター	佐賀県工業技術センターネットワーク接続及び技術支援	1993.1-2000.4
	佐賀県教育センターネットワーク接続及び技術支援	1994.8-1999.3
	佐賀医科大学ネットワーク接続及び技術支援	1995.4-1996.7
	100校プロジェクト武雄市立武雄北中学校ネットワーク接続及び技術支援	1995.5-1997.3
	佐賀県窯業技術センターネットワーク接続及び技術支援	1996.4-2000.4
	佐賀女子短期大学ネットワーク接続及び技術支援	1996.4-2000.4
	佐賀科学少年団主催パソコンによるアニメーション作成入門	2000.12

第10章 学術情報処理センターにおける自己点検・評価の体制

学術情報処理センターでは、運営委員会(委員会構成については第12.2節を参照)の下の運用委員会に自己点検評価のWGを設置し、自己点検評価を実施している。WGは毎年度後期に活動を開始し、資料を収集し報告書を作成する。報告書は運用委員会の審議を経て、運営委員会に提出される。更に、運営委員会の審議の後、学長に提出される。

自己点検評価によって明らかになった問題点、改善点及び将来計画などは、運用委員会によって対処方法等を検討し、必要ならば専門委員会等に検討が付託される。

毎年度の自己点検評価報告書は

<http://www.cc.saga-u.ac.jp/projects.htm>

からPDF形式で公開している。

第11章 学術情報処理センターにおける外部評価の体制

11.1 外部評価の実施

本自己点検評価は、4年を一つの区切りとして実施する。平成14年度は、評価の3年目に当たるため、外部委員を委嘱し外部評価を行う予定である。

11.2 協議会・研究会参加状況

学術情報処理センターでは、センター長が、前身の情報処理センター時代から国立大学情報処理センター協議会に出席してきた。今年度から学術及び総合情報処理センター長会議に出席している。また、学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議に、参加している。

情報処理センター等のシステム運用に関する研究会である、学術情報処理研究集会及び情報処理学会分散システム研究会への参加及び研究発表も行っている。

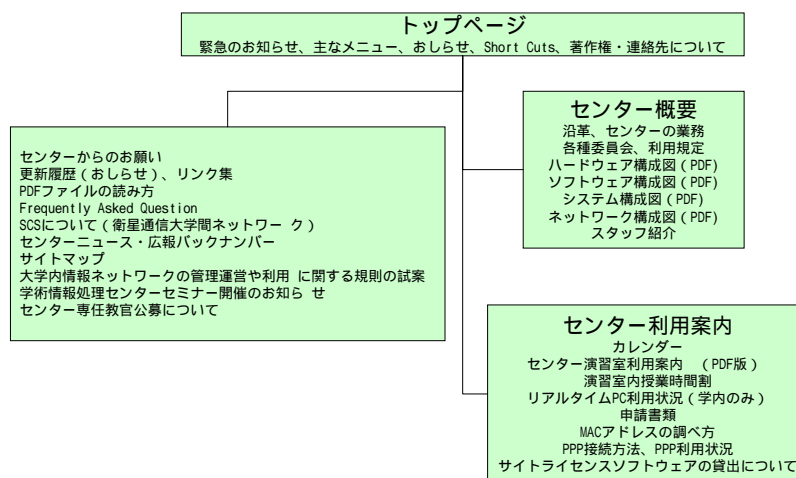
1999年から2002年の協議会・研究会等参加状況		
氏名	協議会・研究会等名称	年月、場所
渡辺義明	第15回国立大学情報処理センター協議会総会	1999年6月、お茶の水大学
	第16回国立大学情報処理センター協議会総会	2000年6月、東京農工大学
	第12回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議	2000年10月、鹿児島大学
	第4回学術情報処理研究集会	2000年10月、鹿児島大学
	第15回学術及び総合情報処理センター長会議	2000年10月、徳島大学
	第16回学術及び総合情報処理センター長会議	2001年10月、岐阜大学
	情報ネットワーク協議会	2002年1月、九州大学
只木進一	第17回学術及び総合情報処理センター長会議	2002年10月、山形大学
	第4回学術情報処理研究集会	2000年10月、鹿児島大学
	第21回分散システム/インターネット運用技術研究会	2001年5月、東京都
	第13回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議	2001年10月、富山大学

	<p>第 5 回学術情報処理研究集会 第 18 回国立大学情報処理センター協議会総会 第 25 回分散システム/インターネット運用技術研究会 第 14 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議 第 6 回学術情報処理研究集会 第 26 回分散システム/インターネット運用技術研究会</p>	<p>2001 年 10 月、富山大学 2002 年 6 月、電気通信大学 2002 年 6 月、電気通信大学 2002 年 9 月、山梨大学 2002 年 9 月、山梨大学 2002 年 10 月、岡山大学</p>
福井市男	<p>第 17 回国立大学情報処理センター協議会総会 国際シンポジウム「大学のグローバル化と IT」 「高等教育におけるメディア活用法」講座</p>	<p>2001 年 6 月、東京医科歯科大学 2001 年 10 月、メディア教育開発センター 2001 年 11 月、メディア教育開発センター</p>
日永田泰啓	<p>第 13 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議 第 5 回学術情報処理研究集会</p>	<p>2001 年 10 月、富山大学 2001 年 10 月、富山大学</p>
江藤博文	<p>第 15 回国立大学情報処理センター協議会総会 第 3 回学術情報処理研究集会 コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウム 第 4 回学術情報処理研究集会 九州大学情報基盤センター情報ネットワーク協議会及びネットワーク運営に関する打合せ 第 21 回分散システム/インターネット運用技術研究会 第 24 回分散システム/インターネット運用技術研究会 第 17 回国立大学情報処理センター協議会総会 第 2 回 PostgreSQL 事例紹介セミナー 第 18 回国立大学情報処理センター協議会総会 第 25 回分散システム/インターネット運用技術研究会 IS 研九州ブロック研究会 第 14 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議</p>	<p>1999 年 6 月、お茶の水大学 1999 年 10 月、弘前大学 2000 年 5 月、和歌山県 2000 年 10 月、鹿児島大学 2001 年 2 月、九州大学 2001 年 5 月、東京都 2001 年 11 月、鹿児島大学 2001 年 6 月、東京医科歯科大学 2001 年 9 月 2002 年 6 月、電気通信大学 2002 年 6 月、電気通信大学 2002 年 9 月、熊本市 2002 年 9 月、山梨大学</p>

	第6回学術情報処理研究集会 第26回分散システム/インターネット運用技術研究会	2002年9月、山梨大学 2002年10月、岡山大学
小野隆久	平成12年度九州地区国立学校等技術専門研修	2000年8月、琉球大学
田中芳雄	セキュリティソリューションセミナー 情報セキュリティセミナー	2000年11月、福岡市 2001年7月、文部科学省
松原義継	平成12年度ネットワークセキュリティ研修 第21回分散システム/インターネット運用技術研究会	2001年3月、国立情報学研究所 2001年5月、東京都

11.3 ホームページからの情報公開と意見収集

図 11.1: 学術情報処理センターホームページの主な構成 (2000年10月現在)



佐賀大学学術情報処理センターの前身の情報処理センターでは、1994年からWWWサービスを実験的に開始し、センターサービスの広報などに利用してきた。学術情報処理センターへの改組後は、内容を一新し、センターの様々な活動の広報を行っている。更に、センター広報、センターニュースなど広報のオンライン化、各種申請書式のオンライン化等を順次進めている。

学術情報処理センター発足に当たって、システム利用、ネットワーク利用などの情報化関連の各種

規定類の整備を行っているが、その原案を WWW から広報を行い、意見収集を行った。集計などの問題のため、その際の意見収集は電子メール及び文書によって行った。

また、日常的なセンターの活動への意見用フォームを WWW からダウンロード可能である。センターシステム利用に係わる質問回答集も公開している。


センターが行うシステムやサービスの整備、研究・教育活動などの WWW による広報については、検討中である。

図 11.2: 学術情報処理センターホームページ (2001 年 12 月現在)


佐賀大学学術情報処理センター


http://www.cc.saga-u.ac.jp/index.j.php3

Last Update: 2002-01-10 13:29:30









佐賀大学学術情報処理センター
 Saga University Computer and Network Center



キーワード検索  [検索方法](#)

1月15日(火)よりセンターシステムのリブレース作業が始まります
ニュースサーバの入れ替えを行いました(1/10)

Menu		
<p style="text-align: center;">センター概要</p> <p>沿革 センターの目的 業務内容 各種委員会 議事録 サブドメイン一覧 学内組織別管理運用担当者一覧 建物見取り図 センターシステムの概要 (ハードウェア、ソフトウェアの構成図等) ネットワークの概要 (構成図等) システム更新(新システム)の概要 教育用LANの計画 スタッフ紹介</p> <p>利用規程 大学内情報ネットワークの管理運営 や利用に関する規則</p> <p style="text-align: center;">業務記録</p> <p>セミナーのお知らせ センター日誌 プロジェクト紹介 自己点検評価報告書 センターニュース 広報</p> <p> センター連絡先 著作権 更新履歴 (過去のお知らせ)</p>	<p style="text-align: center;">利用案内</p> <p>[PDF]演習室利用案内 ネットワーク利用FAQ集 センターからお願い ソフトウェアの貸出</p> <p>カレンダー (利用時間) 演習室内授業時間割 リアルタイムPC利用状況</p> <p> SCSIについて</p> <p>申請書類 学内ネットワークへの接続方法 --- MACアドレスの調べ方</p> <p>sshでの接続方法 --- MacOS編、--- Windows編</p> <p>PPP接続方法 学外PPP利用状況</p> <p>PDFファイルの読み方</p> <p>利用者用WWWサーバ</p>	<p style="text-align: center;">お知らせ一覧 詳細へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. センターニュースNo.31(1/10) 2. 演習室の利用停止について(12/28) 3. メール転送の不具合について(12/13) 4. センター日誌11月分(12/6) 5. ウイルス W32.Aliz」とW32.Badtrans.B」について(11/29) 6. 利用案内にsshでの接続方法を掲載(11/27) 7. ネットワークのセキュリティー強化とファイアーウォールの設置について(11/19) 8. 申請書類に追加(11/1) 9. センター利用者用WWWサーバの運用開始について(10/29) 10. 個人用Webサーバ(利用要項の公開(10/1) 11. ウイルス W32.Nirnda」について(9/20) <p style="text-align: right;">めっこの日は登録日)</p>

リンク集  佐賀大学 公式ページ / 附属図書館  電子図書館「とんぼの瞳」
---シラバスのページ  ウェブメール  etc.

お知らせ詳細

1. センターニュースNo.31を追加しました(1月10日)
2. 演習室のPCの入れ替えのため下記の期間は演習室の利用ができません。(12月28日)
1月15日(火) - 2月3日(日)
3. 12月11日(火)の保守から13日(木)の9時くらいまで学術情報処理センターの研究システムでメールの転送(forward)が出来ない不具合が発生しました。御迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。現在は復旧しておりますが、この間に来たメールは研究システムのメールサーバに残っています。取得方法をこちらに掲載しておりますので御覧ください。(12月13日)
4. センター日誌11月分を追加しました。(12月6日)
5. ワーム型ウイルス W32.Aliz」とW32.Badtrans.B」の2つのウイルスは、感染力が非常に強いため学内で多くの被害が出ています。特に W32.Badtrans.B」は、「ロイの木馬」と言われるプログラムを侵入させパスワードを盗み出す悪質なウイルスです。なお、この2つのウイルスに感染した場合は、学情センターが貸し出しを行っているAntiVirusにより駆除できます。また、これらのウイルスに感染した方でMicrosoft Internet Explorer 5.01及び5.5を利用されている場合は、必ずパッチをあててウイルス対策を行って下さい。(1月29日)
W32.Aliz」とW32.Badtrans.B」の詳細情報は、<http://www.syrantec.com/> をご覧ください。
Microsoft Internet Explorer 5.01及び5.5の脆弱性に対する修正プログラムと情報は、<http://microsoft.com/> をご覧ください。
6. **利用案内**にsshでの接続方法--- MacOS編と--- Windows編を追加しました。(11月27日)
7. ネットワークのセキュリティー強化のため、本学のネットワーク入口に11月27日(火)ファイアーウォールを設置し

第12章 学術情報処理センターの活動

12.1 センター活動の現状と計画

12.1.1 センターの活動状況

1999年9月から2002年9月までの活動状況

- H11. 9: 建物内のネットワークを10Mbpsから100Mbpsへ高速化する工事を行う。前年の工事と合わせ、ほぼ全学に渡る工事が完了した。
- H11. 9: 農学部新棟の完成に伴い、ネットワークを拡大する。合わせて、利便性の向上のためDHCPサーバを設置する。
- H11.10: センター利用に関する申し込み用紙及び要望提出用紙のPDFによるオンライン提供を開始する。
- H11.11: 理工学部2号館(機能物質化学科棟)に、利便性の向上のためDHCPサーバを設置する。
- H11.11~12: 2000年問題への対応作業を行う。なお、幸いにも2000年に起因する障害は発生しなかった。
- H11.12: 2000年対策作業に合わせて、演習用システムのソフトウェアをバージョンアップする。
- H11.12: 学術情報処理センター設置の具体化に合わせて設置準備委員会を設置する。
- H12. 1: 特別講演会「インターネットにおけるセキュリティインシデントの実態と対策」(奈良先端大、山口英)を開催する。
- H12. 1: 学術情報処理センター規程およびセンター利用規程を制定する。
- H12. 1: 学術情報処理センター長を選考する。
- H12. 1: 学内措置で運用しているセンター教官2名を継続して運用することに対して、学内の了解が得られる。
- H12. 3: Web上でMailを操作できるソフトWebMailerの試験運用を開始する。これは知能情報システム学科で開発したものである。
- H12. 3: 設置に伴うレンタル増に対する仕様策定委員会を設置する。導入システムとして電子図書館システムを計画する。

- H12. 3: 東京工業大学へ電子図書館システムの視察に行く。
- H12. 3: 電子図書館システムの仕様策定に必要な資料を招請するため、業者説明会を開催する。
- H12. 3: 情報処理センター広報第9号を発行する。
- H12. 4: 学術情報処理センターおよび運営委員会が設置される。
- H12. 4: 学術情報処理センター長が評議員に指名される。
- H12. 4: 技官と事務官の体制が増強される。
- H12. 4: 研究支援推進員1名を採用する。
- H12. 4: 専任教授および助教授の選考作業を開始する。
- H12. 4: キャンパス情報ネットワーク関連規則案の議論を開始する。これは管理規則、利用者の倫理規程、管理者の倫理規程、措置に関する内規などを含む。
- H12. 4: シラバスオンライン化の全学的検討を開始する。
- H12. 4: 学術情報処理センターと附属図書館（増築分）を合わせ現図書館横（佐賀大学の中心地）に新築する案を策定する。
- H12. 5: 上記合築案が佐賀大学施設委員会で正式に承認され、佐賀大学の概算要求事項となる。
- H12. 5: ネットワーク混雑に対応するため、九州大学との専用線を1.5Mbps高速デジタル回線から、6MbpsATM専用回線へ高速化する。
- H12. 5: 佐賀大学同窓会館の完成に伴い、ネットワークを拡大する。
- H12. 5: コンピュータ犯罪の現状を知るため、「コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウム」に参加する。
- H12. 5: 情報処理センター広報をモデルケースとして、電子化とWeb公開に関する著作権許諾を試行する。
- H12. 5: 古文書「小城鍋島文庫」の電子化を検討するため、専門家を入れた作業グループを構成する。
- H12. 5: 電子図書館システム仕様書案の業者説明会を開催する。
- H12. 6: 学術情報処理センター設置記念学術講演会を開催する。
- H12. 6: 電子図書館システム入札説明会を開催する。
- H12. 6: 理工学部新棟（サテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリおよび工学系研究科独立専攻生体機能システム制御工学専攻が入居）の完成に伴い、ネットワークを拡大する。合わせて、NATとDHCPを導入することにより、セキュリティ強化と利便性向上を行う。

- H12. 6: 科学技術共同開発センターのネットワークに、NAT と DHCP を導入し、セキュリティ強化と利便性向上を行う。
- H12. 6: 郵政省推進の「ギガビットネットワーク」を佐賀大学から利用するため、「NetCom さが」と学術情報処理センターの間に 44Mbps の高速回線を設置する。
- H12. 6: 国立大学情報処理センター協議会（東京農工大学）に出席する。
- H12. 6: 公開端末や学生持参のノート PC に対応できるネットワーク利用認証システム Opengate の試験運用を開始する。これは、学術情報処理センターと知能情報システム学科の共同研究によるものである。
- H12. 7: 佐賀県立生涯学習センター主催「さがトレンドセミナー」にて、講演「コンピュータと生活」を行う。
- H12. 7: 事務局のネットワークに、DMZ を含むセキュリティ強化策を施す。
- H12. 8: 佐賀大学、大学説明会及びオープンキャンパスの参加する。
- H12. 8: 電子図書館システムの入札を受け、技術審査を行う。
- H12. 8: 郵政省と文部省が進めている「マルチメディア活用学校間連携推進事業」の中の「大学等との連携」の一環として、「NetCom さが」と佐賀大学とを高速回線で結ぶ。
- H12. 8: 九州地区国立学校等技術専門職員研修に参加する。
- H12. 9: 佐賀県個人情報保護制度懇話会に委員として参加する（会合 5 回）。
- H12. 9: 佐賀県高度情報化推進協議会第 6 回ソフトウェアコンクールの審査に委員として参加する。
- H12. 9: コンピュータウイルスの社会問題化に対応するためワクチンソフトの全学サイトライセンスを取得する。
- H12. 10: 第 12 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議（鹿児島大学）に参加する。
- H12. 10: 第 4 回学術情報処理研究集会（鹿児島大学）において、2 件の発表を行う。
- H12. 10: レンタル更新を控え、次期センターシステムおよび次期図書館システムの検討を開始する。
- H13. 3: 電子図書館システムの運用を開始する。
- H13. 5: 佐賀県高度情報化協議会総会に出席する。
- H13. 5: オンラインシラバス、教官総覧を学外へ公開する。
- H13. 5: 高速基幹ネットワークの敷設に伴う学内ネットワーク配線調査を行う。
- H13. 6: 高度情報処理システム入札説明会を開催する。
- H13. 6: 第 17 回国立大学情報処理センター協議会総会に出席する。

- H13. 7: 文部科学省セキュリティセミナーに出席する。
- H13. 8: オープンキャンパスへ参加する。
- H13. 8: FDDI 通信装置を撤去する。
- H13. 8: 国際協力事業団によるインドネシア共和国における調査に参加する。
- H13. 8: 基幹 LAN を Gigabit Ether へ切替える。
- H13. 8: 高度情報処理システムの入札を受け、技術審査を行う。
- H13. 9: 高度情報処理システムの導入作業を開始する。
- H13. 9: 学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議に出席する。
- H13. 9: 佐大 - 九大間の ATM 専用回線を 15Mbps へ高速化する。
- H13. 10: 佐賀県高度情報化推進協議会ソフトウェアコンテスト審査会に出席する。
- H13. 10: 第 13 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議に出席する。
- H13. 10: 第 5 回学術情報処理研究集会に出席する。
- H13. 10: 佐賀県高度情報化推進協議会ソフトウェアコンテスト表彰式に出席する。
- H13. 10: 国際協力事業団による「情報技術及び高等教育行政」研修コースに講師として参加する。
- H13. 10: 大学のグローバル化に関するシンポジウムに出席する。
- H13. 11: ADSL 回線へ接続する。
- H13. 11: アクセスポート制限 (Firewall 設定) を開始する。
- H14. 2: 特別講演会「IT およびそのサービス提供における法的問題」開催
- H14. 2: 新システム (高度情報処理システム) 稼働。ディスクレスで Windows と UNIX システムを提供できる端末群で演習室を構成。
- H14. 3: 教室・会議室等に無線 LAN、情報コンセント整備
- H14. 3: センターおよび図書館システムの更新
- H14. 3: 特別講演会「高等教育機関における e-learning - 海外・国内大学の事例紹介と今後の課題 - 」開催
- H14. 3: センター広報第 2 号発行
- H14. 3: 自己点検・評価報告
- H14. 3: 国際協力事業団「インドネシア電気系ポリテクニク教員養成計画」に講師として派遣。

H14. 5: 佐賀県高度情報化推進委員会幹事会出席

H14. 6: 第 18 回国立大学情報処理センター協議会総会出席

H14. 7: 九州大学情報基盤センター全国共同利用運営委員会出席

H14 8: セキュリティポリシー会議

H14. 8: 国際協力事業団「インドネシア電気系ポリテクニク教員養成計画」に講師として派遣。

H14. 9: ウィルス対策装置導入

H14. 9: 第 14 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議に出席する。

H14. 9: 第 6 回学術情報処理研究集会に出席する。

12.2 学術情報処理センターの委員会構成

学術情報処理センターの委員会の構成を図 12.1 に示す。運営委員会がセンター運営全般に係わる委員会であり、学術情報処理センター長、附属図書館長、全学教育センター長、各学部選出委員、及びセンター教員から構成されている。

日常的な運用及び諸実務処理は、運営委員会の下に常設されている運用委員会がおこなっている。運用委員会の活動状況は第 12.2.1 節にまとめる。その他、システム運用上の問題の処理、及びシステム更新に先駆けて、現状システムの問題点、次期システムへの方針などを検討するシステム検討委員会、電子図書館に係わる専門の事項を検討する電子図書館専門委員会、全学のネットワーク運用の問題を検討するネットワーク専門委員会、及び SCS の利用促進と利用調整を行う SCS 専門委員会が設置されている。

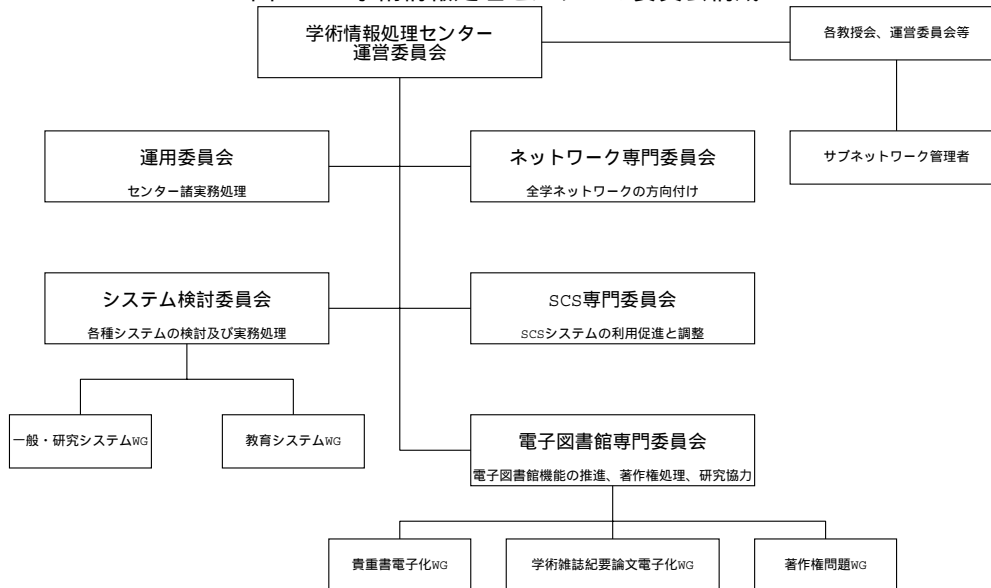
12.2.1 運用委員会の主な議題

運用委員会は、センターの日常的な運用に関する事項を審議・決定する委員会であり、毎月定例の会議を行っている。1999 年 10 月 (当時情報処理センター) から 2002 年 9 月までの主な議題を列挙する。

1999 年 10 月 22 日

- センターニュース (No. 146)
- 「一般・研究用システム利用申込書」と「学内 LAN 接続申請書」の一部変更
- 「利用について (申込み案内と PDF 化した申請書等)」のセンターのホームページへの追加
- 広報の記事の変更
- 本学と九州大学間の通信回線の高速化検討
- ATM スイッチと FDDI ルータの 2000 年問題

図 12.1: 学術情報処理センターの委員会構成



- センター主催特別講演会
- DNS へのアタック報告
- 報告事項

1999 年 11 月 19 日

- 情報処理センター関係の 2000 年対応状況
- センター主催特別講演会講師の決定
- 佐賀大学学術情報処理センター設置準備委員会の設置
- 佐賀大学学術情報処理センターに伴うシステム更新
- オープンキャンパスへの対応
- 九大との回線の混雑の原因と対策
- 佐賀大学同窓会からドメイン名取得依頼
- 報告事項

1999 年 12 月 17 日

- 学術情報処理センターの準備状況
- 2000 年問題対策
- 予算執行状況
- 九大との回線の混雑の原因と対策

- センター主催特別講演会講師との交渉状況
- 報告事項

2000年1月21日

- 学術情報処理センター準備状況
- センター予算の執行状況
- 広報原稿
- POP 及び PPP に関する利用者からの要望への回答
- 学術情報処理センター改組準備に伴う図書館から運用委員会へのオブサーバの参加
- 学術情報処理センター改組に伴うシステム更新検討 WG メンバー
- 電子図書館機能の構想
- 報告事項

2000年2月16日

- 学術情報処理センター準備状況
- 新システムの検討状況
- センター予算の執行状況
- 報告事項

2000年3月17日

- *Remote Sensing Data and Information Access Link* 実験にともなう回線
- センター予算の執行状況確認
- 事務系ネットワークをプライベートアドレスに移行する作業について
- 理工学部8号館ネットワークについて
- 同窓会会館のネットワークについて
- R&D センターのネットワークについて
- QCN の接続と Proxy サーバの運用開始と利用状況
- 報告事項

2000年4月21日

- 運用委員長選出
- 「ギガビットネットワーク通信回線接続の為の高速回線設置について」の了承
- 「学内 LAN 接続申込書」の様式
- 「一般・研究用システム利用申込書」の様式

- センターニュース No.2
- 規定類の検討
- センター建物について
- センター技官の運用委員会への参加
- モバイル端末や一時端末の取扱検討開始
- 演習室での大量印刷への対応
- 報告事項

2000 年 5 月 19 日

- 「学内 LAN 接続申込書」及び「一般・研究用システム利用申込書」様式
- 1999 年度決算
- 専門委員会の設置
- 規定類の原案承認
- 電子図書館専門委員検討
- センター ID を持たない教員への対応
- センター内業務ネットワークのプライベートアドレスへの移行検討
- 著作権処理
- 今年度の広報編集方
- 報告事項

2000 年 6 月 16 日

- 2000 年度予算編成
- 専門委員会の設置
- センター広報原稿に係わる著作権許諾書の書式及び処理について
- 報告事項

2000 年 7 月 14 日

- 2000 年度予算に関する全学予算委員会及び運営委員会による承認
- 2000 年度広報の内容
- 自己点検評価方針
- 「オープンキャンパス」への対応
- ワクチンソフトの全学ライセンス及び貸し出し体制
- 夏休み中の開館予定
- 平成 12 年度教育改善推進経費 (学長裁量経費) への対応

- 報告事項

2000年9月8日

- 自己点検評価項目
- センター広報の目次案
- 特別講演会開催検討
- ネットワーク規則案の取り扱い
- 2002年春のシステム更新を附属図書館業務システムと一体で行う件
- Web 運営方針の検討へ向けた準備
- 佐賀県主催の講習会への対応
- センター相談員の今後の雇用
- 報告事項

2000年10月13日

- 委員の交替と委員長選出
- 自己点検評価報告書作成開始
- システム更新に係わる演習室の確保
- 教育内容に関するアンケート
- ネットワーク規則案の取り扱い
- メールによるセンターニュース配送
- センターが取り組んでいる作業やプロジェクトの広報体制
- 報告事項

2000年11月17日

- 予算執行状況
- センターニュース No8 及び 9
- センター講演会講師案
- センター広報の出版時期
- 光ファイバ敷設の方針
- 文化教育学部演習室で Opengate 試用開始
- 11月16日夜間の九大との回線工事後の障害
- 報告事項

2000年12月22日

- 教室用ネットワーク整備の場所
- 附属学校への無線 LAN 設置
- ネットワーク関連工事の進行状況
- SINET 増強に関連したノード校化への要請
- センター講演会
- センター広報の執筆予定者への連絡時期
- 卒業生メールシステムの検討
- 休日などのシステム運用について問題提起
- 報告事項

2001 年 1 月 19 日

- 「キャンパス情報ネットワークシステム」仕様策定終了
- 高度情報処理システム更新に関わるサテライト演習室確保の困難
- 規定類
- ネットワーク接続環境を持たない教員の調査
- 電子図書館稼働への準備
- 電子図書館システム稼働に伴う附属図書館ネットワーク切替え
- 報告事項

2001 年 2 月 23 日

- 維持費の予算執行状況報告
- 教室へのネットワーク整備
- 報告事項

2001 年 4 月 20 日

- 「佐賀大学キャンパス情報ネットワーク管理規定」に基づく、管理者、運用担当者及び連絡担当者の確認
- 一般利用者用 WWW サーバの運用に向けた検討
- 卒業生に対するメールの転送サービスシステムの検討
- 教室へのネットワーク整備
- 附属学校への無線 LAN
- 報告事項

2001 年 5 月 18 日

- 組織内ネットワーク管理者の調査報告

- 建屋内ネットワーク整備 (教室系) のための調査票配布
- システム更新の概要説明
- 報告事項

2001年6月15日

- 平成12年度決算
- 平成13年度予算編成方針
- 教室用情報配線と各建物の改修計画
- オープンキャンパス
- オンライン英語教育教材の紹介
- 報告事項

2001年7月6日

- 平成13年度予算
- 利用者用WEBサーバ利用要項
- WEB Proxy サーバの設定方針
- 報告事項

2001年9月14日

- 電子図書館関連の著作権問題
- 新ネットワーク移行時の体制不備と対策
- 平成13年度広報目次
- 報告事項

2001年10月19日

- 利用者WEBサーバサービス開始
- 次期システムへのソフトウェア要望
- ホームページ利用サービス
- 講演会講師
- 平成13年度広報執筆依頼
- 報告事項

2001年11月16日

- ファイアウォール設定方針最終確認
- ファイアウォール導入初期の対応体制

- ファイアウォールに関する要望への対応
- 利用者ホームページの学外公開方針と手順
- 報告事項

2001 年 12 月 14 日

- センター長改選手順
 - ウィルスメールのフィルタリング
 - 報告事項
- ファイルサーバ、教育用 LAN、新システム導入作業、著作権 WG

2002 年 1 月 18 日

- 2002 年度 SINET 接続
 - ADSL 接続
 - 自己点検評価
 - 諮問委員会
 - 運営委員会予定
 - 学外公開 WWW
 - メディア教育に関するセンター特別講演会
 - 報告事項
- 教育用 LAN 進行状況、新システム導入作業、システム更新作業中の印刷サービス、ホストマシン室電源工事、ウィルスチェック障害、Proxy サービス、特別講演会、広報締め切り

2002 年 2 月 22 日

- 予算状況 (電気代の増加について注目)
 - 概算要求事項
 - SINET への接続増強
 - 著作権関連のトラブル
 - 教育用 LAN 設置にともなう、オリエンテーション依頼
 - 生協の ID 取得
 - IPv6 実験
 - 報告事項
- 演習室サービス開始、教育用 LAN コンセント設置、特別講演会、広報原稿✓切
確認

2002 年 4 月 5 日

- 運用委員長改選
- センターニュース
- 博士論文及び紀要論文電子化
- オンラインシラバス画面構成
- 報告事項

新入生登録状況、理工学部改修、概算要求、センター広報の校正、附属学校への無線

2002年5月17日

- 「佐賀大学キャンパス情報ネットワーク利用案内」の作成
- 佐賀医科大学との統合へ向けた概算要求
- 広報活動の不備と改善
- 2001年度版広報の不具合
- 報告事項

2002年6月14日

- 平成13年度決算
- 平成14年度予算
- 「一般・研究用システム利用申込書」様式変更
- 無線LAN装置設置希望
- ウィルス対策装置の予算要求
- 報告事項

2002年7月19日

- 夏期休業中の開館予定
- 夏期休業中の停電
- 未登録Webポートの閉鎖
- ウィルス対策装置導入
- 流用定員分の校費及び旅費
- メーリングリストの開設依頼に対する方針
- 利用者の整理
- 報告事項

2002年9月20日

- 外部評価
- センター広報案

- ファイアウォールの一部学科に対する猶予見直し
- センター広報の著作権処理
- Web サーバ内の各部局のパスの短縮
- 個人 Web ページの学外公開
- ネットワーク維持費
- 報告事項
 - 演習室システム調整、パンフレット、演習室利用の手引、IP 部会教科書、JICA 研修

12.3 広報活動

12.3.1 広報誌発行

学術情報処理センターでは、情報処理センター時代の 1991 年度から毎年一度広報を発行している。1999 年度版及び 2001 年度版の広報の内容は以下に示す。近年は、セキュリティに関連した記事が多くなっている。また、1999 年度版は、情報処理センター発行の最終号であるため、情報処理センターの歩みと新しい学術情報処理センター発足に関する特集を組んでいる。なお、広報記事は本文を含めて

http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/public_info.htm

から公開されている。

佐賀大学学術情報処理センター広報第 2 号 (2002 年 3 月) 目次	
一般情報処理教育の再検討	福井市男
学術情報処理センター・システム	
学術情報処理センター・システムの紹介	小野隆久
新キャンパス情報ネットワークの紹介	江藤博文
2 年目の電子図書館	木村伸子
オンラインシラバスとその入力	岩永光子, 只木進一
ウェブを使おう -Netscape のインストールから自作ウェブ・ページの公開まで-	日永田泰啓
化学系ソフト ISIS/DRAW と WinMOPAC の使い方	鯉川雅之
地理情報システム (GIS) の利用	大串浩一郎
ネットワーク	
教育用 LAN の利用	渡辺健次
キャンパス無線 LAN の利用	渡辺健次
Windows による ssh の学外からの接続方法	江藤博文
MacOS による ssh の学外からの接続方法	江藤博文

経済学部と自宅を結ぶ暗号化経路の試み PPP over TCP over SSH	安田伸一
インターネットと法 -大学におけるリーガル・マインド-	岩本諭
時時代のインターネットプロトコル IPv6-実際に使ってみよう-	大谷誠
学術情報処理センター資料	
佐賀大学学術情報処理センター広報第1号 (2001年3月) 目次	
学術情報処理センター設置によせて	佐古宣道
学術情報処理センターの概要と課題	渡辺義明
電子図書館システム	
「とんぼの目」(佐賀大学電子図書館紹介)	只木進一
オンライン・シラバス・システム	安田伸一
「貴重書コレクション」と「貴重書データベース」	木村伸子
ネットワーク	
ネットワーク利用認証システム Opengate の紹介	渡辺義明
わたくしの計算機環境 (2001年版)	渡辺健次
ウェブメーラーの紹介	竹田暁彦
プライベートネットワークの推め	只木進一
Windows200Server による VPN サーバの構築と運用	相森豊徳
学術情報処理センター設置記念講演会資料	
学術情報基盤に関する当面の諸問題	山田真貴子
電子図書館の諸問題と将来展望	吉田政幸
学術情報処理センター特別講演会資料	
ネットワーク時代の協働モデル	國領二郎
学術情報処理センター資料	
佐賀大学情報処理センター広報第9号 (2000年3月) 目次	
特集 1 情報処理センターの過去と未来	
最後の情報処理センター長として	渡辺義明
初代センター長の思い出	荒牧軍治
2番、セカンド、新井	新井康平
佐賀大学電子計算機室	森田譲
情報処理センターは何をしてきた?	福井市男
情報処理センターの歴史	渡辺義明
学術情報処理センター紹介	渡辺義明
学術情報処理センターに期待する	荒牧軍治
特集 2 情報のセキュリティとリスク管理	
ネットワークセキュリティの現状	江藤博文
UNIX ネットワークセキュリティー入門	只木進一

Windows システムのセキュリティ入門	安田伸一
学外からセンターに届いたメールを安全に読む方法	渡辺健次
SSH を利用したファイル転送の利用について (Windows 版)	小野隆久
SSH を Mac で使うには	平良豊
知的財産の有効活用と尊重 (入門編) - 身近なリスク管理 -	寺本顕武
コンピュータウイルスの話	渡辺義明
外出先から電子メールを読む時の無駄を無くすには	渡辺健次
通信カードの MacAddress の調べ方	小野隆久

12.3.2 センターニュース

学術情報処理センターは、情報処理センター時代から、利用者への日常的な広報媒体として、A4 一枚を原則とするセンターニュースを適宜発行してきた。1999 年 9 月以降の目次を以下に示す。なお、センターニュースは

http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/center_news.htm

から PDF 形式で公開されている。

No.44(2002.10.3)

1. 停電による学内外ネットワークの停止と臨時閉館について
2. ウィルス対策装置の運用開始とメール利用の注意について
3. ネットワーク利用案内の学生への配布について
4. 申し込みがなかった Web サーバ等の学外からのアクセス停止について

No.43(2002.8.26)

1. 九州大学の停電による学外ネットワークの停止について
2. ホームページの改ざんに対する注意について
3. 教職員のディスク容量について
4. 学外公開を行っている Web サーバの申請について

No.42(2002.7.29)

1. 計画停電によるネットワークの停止について
2. 教育用システムの再構築による演習室の利用停止について
3. 学外公開を行っている Web サーバの申請について

No.41(2002.7.24)

1. 夏休み期間の開館日及び利用時間等の日程について

No.40(2002.7.8)

1. インターネット利用による著作権侵害行為の注意について
2. 計算サーバの利用講習会の申し込みについて

No.39(2002.6.10)

1. ワーム型ウィルス「W32.Klez」の被害拡大について
2. 利用者用 Web サーバの入れ替え作業について
3. e-Learning システムの紹介について

No.38(2002.4.25)

1. 教職員等の「一般・研究用システム」の利用継続の手続きについて
2. ホームページで利用できる電子メールソフト「WebMailer」について
3. ワーム型ウィルス「W32.Klez」の注意について

No.37(2002.4.15)

1. 本学を卒業し大学院等に進学した学生の利用申し込み手続きについて
2. 他大学などから大学院等に入学した学生の利用申し込み手続きについて
3. 無線 LAN 装置の貸し出しサービスについて
4. 新システムの演算サーバの利用について

No.36(2002.4.8)

1. 教育用 LAN 情報コンセントと無線 LAN の運用開始について
2. 停電による学内外ネットワークの運用停止について

No.35(2002.3.25)

1. 3月末で卒業する学生の利用期限等について
2. 重要なプログラム配布を偽るウィルスに対する注意について
3. 学外ネットワークの高速化作業による学外ネットワークの運用停止について

No.34(2002.3.4)

1. インターネットを利用した著作権侵害行為に対する注意について
2. 新種ウィルスに対する注意について

No.33(2002.2.19)

1. 2月25日～3月31日までの開館日及び開館時間等の日程について
2. SNMP の脆弱性に対する注意について

No.32(2002.1.18)

1. センター内電源工事による学内外ネットワークの運用停止について
2. ワーム型ウイルス「JS.Gigger.A」の注意について
3. InternetExplorer5.5 及び 6.0 のセキュリティホールについて

No.31(2002.1.9)

1. センターシステムのリプレース作業期間のセンターの利用について
2. センターシステムのリプレースに伴う計算サーバの運用について
3. センターシステムのリプレース期間中の学生の電子メールの利用について
4. センター試験による臨時閉館等について

No.30(2001.11.30)

1. 年末年始の学情センターの運用（開館日と開館時間）について
2. 教育用情報コンセント及び無線 LAN の設置工事について
3. ワーム型ウイルス「W32.Aliz」と「W32.Badtrans.B」に関する注意について
4. ネットワークのセキュリティ強化のためのファイアーウォールの設置について

No.29(2001.11.19)

1. ネットワークのセキュリティ強化について
2. 通信装置のアップグレードに伴う学内外ネットワークの運用停止について
3. センターシステムのリプレースに伴う演習室の利用停止について

No.28(2001.11.12)

1. 停電による学内外ネットワークの運用停止について
2. センター・システムのリプレース及び教育用 LAN の整備について
3. SCS 放送による「ISS-SCS 宇宙講座」の受信について
4. Servlet 版 WebMailer の試験運用について

No.27(2001.10.29)

1. 学情センター利用者用 WWW サーバの運用開始について
2. カラーコピーの利用について

No.26(2001.9.20)

1. 全学停電によるネットワークの運用停止について
2. ワーム型ウイルス「W32.Nimda」に関する注意について

No.25(2001.9.14)

1. 学外ネットワークの高速化による学外ネットワークの運用停止について
2. BSD系OSのプリンタデーモン lpd に含まれる脆弱性について
3. Linuxのテルネットデーモン in.telnetd に含まれる脆弱性について
4. ワーム型ウイルス W32.Sircam に関する注意について

No.24(2001.8.17)

1. GigabitEthernet-LAN への接続変更作業による学内 LAN の完全停止について
2. 理工学部 6 号館内の UTP ケーブル配線工事について
3. ウイルス「コード・レッド」の注意について

No.23(2001.8.6)

1. 通信装置の設置等によるネットワークの短時間停止について
2. 個人用 Web サーバ利用要項(案)の公開について
3. 電子図書館データベース開発者公募について

No.22(2001.7.13)

1. 夏休み期間の開館日及び利用時間等の日程について

No.21(2001.7.6)

1. 既存光ケーブルの配線工事によるネットワークの停止について

No.20(2001.6.29)

1. 停電による学内外ネットワークの運用停止について
2. 7月7日(土)の開館時間の変更について
3. 基幹 LAN 敷設に伴う建物内配線工事等について
4. Microsoft Index Server のセキュリティホールについて
5. Solaris 上の lpd のセキュリティホールについて

No.19(2001.5.28)

1. Windows2000,Me と MacOS 対応の NortonAntiVirus の貸し出しについて
2. 高速基幹 LAN(GigabitEthernet-LAN) の敷設について

No.18(2001.5.14)

1. Web サーバソフト IIS(5.0) のセキュリティホールについて
2. Solaris マシンのセキュリティホールを悪用したホームページの改ざんについて

3. ワーム型ウイルス「Homepage(ホームページ)」の注意について

No.17(2001.4.16)

1. LASER5 Linux6.x の lpr システムのセキュリティホールについて
2. SUN(Solaris2.6/7/8) のセキュリティホールについて
3. 「一般・研究用システム」の利用継続手続きについて

No.16(2001.4.2)

1. SINET の運用停止による学外ネットワークの不通について
2. 光ケーブルの配線ルート変更工事による学外ネットワークの不通について
3. 大学院等に進学した学生の新規登録の手続きについて

No.15(2001.3.19)

1. オンラインシラバスシステムの運用状況について
2. 「教官総覧」のオンライン版「佐賀大学教官の研究教育活動」の試験運転について
3. 学内 LAN の断続的な不通について
4. 3 月末で卒業する学生の利用期限等について

No.14(2001.2.28)

1. マルチメディア編集システムの説明会について
2. 電子図書館システムの運用開始について
3. 教育用システムの機能アップについて

No.13(2001.2.9)

1. 2 月 19 日～4 月 8 日までの開館日及び開館時間等の日程について
2. 停電による学内外ネットワークの運用停止について

No.12(2001.1.29)

1. オンラインシラバスシステムの説明会について
2. 教育用システムの機能アップ作業による教育用システムの運用停止について
3. 演習室 PC のソフトウェアのバージョンアップ作業等による演習室の利用停止について

No.11(2001.1.12)

1. 停電による学内外ネットワークの運用停止について
2. センターの開館時間の短縮と閉館について
3. オンラインシラバスシステムの説明会開催について

4. 学内 LAN の整備について

No.10(2000.12.15)

1. 本学におけるネットワーク利用環境等に係る調査について
2. コンピュータの管理について

No.9(2000.11.30)

1. 停電による学内外ネットワークの運用停止について
2. 年末年始のセンターの運用（閉館日と開館時間）について
3. ワーム型ウイルス「W32.Navidad(ナビダット)」の注意について

No.8(2000.11.21)

1. 本学におけるネットワーク利用環境等に係る調査について
2. オンラインシラバスシステムについて
3. ウイルス「MTX(マトリックス)」の被害拡大について
4. 第6回ソフトウェアコンクールで WebMailer が受賞

No.7(2000.10.16)

1. ワクチンソフト (Norton AntiVirus) の貸し出しについて
2. Microsoft Outlook のウイルス対策について
3. 新種ウイルス「MTX(マトリックス)」について

No.6(2000.7.24)

1. 8月の開館日及び利用時間等の日程について

No.5(2000.7.11)

1. 停電によるセンター・システム及び学内外ネットワークの運用停止について
2. 学内情報ネットワークの管理運営や利用に関する規則類の試案の公開について
3. WebMailer を利用してのアンケートについて

No.4(2000.6.5)

1. 学内情報ネットワークの管理運営や利用に関する規則類の試案の公開について
2. 申し込み用紙の様式変更について
3. WebMailer で読んだメールについて

No.3(2000.5.9)

1. LoveLetter と呼ばれるウイルスメールについて

2. 専用回線の高速化でのお詫びとお願いについて

No.2(2000.4.24)

1. 専用回線の高速化による学外ネットワークの停止について
2. 大学院生に進学した学生の新規登録の手続きについて
3. SCS の放送案内について 4. センターの臨時閉館について

No.1(2000.4.3)

1. 学術情報処理センター発足の挨拶
2. 「一般・研究用システム」の利用継続手続きについて
3. No.153(2000.3.21)
 - (a) 3 月末で卒業する学生の利用期限等について
 - (b) 大学院等へ進学する学生の利用登録について
 - (c) Windows98/95 でホームページを見る時の注意について
4. No.152(2000.2.28)
5. 3 月の開館等の日程について
6. 官公庁のホームページ改ざん事件の現状について

No.151(2000.2.7)

1. WebMailer の試験運用について
2. InternetExplorer のセキュリティホールについて

No.150(2000.1.5)

1. 新年のご挨拶
2. 西暦 2000 年問題の経過について
3. 大学入試センター試験による閉館について
4. PPP 接続時間の制限について
5. ニュースサーバの不具合について

No.149(1999.12.9)

1. センターの 2000 年問題の対応について
2. 年末年始の情報処理センターの開館（日・時間）等の日程について
3. 演習室の利用停止と教育用 EWS の利用制限について
4. 2000 年問題対応作業による定期保守時間の延長について
5. ユーザファイルのバックアップについて

6. 電子メールによる年賀状交換等の自粛について
7. 学外ネットワークの混雑状況について
8. 申請書等のホームページ掲載について

No.148(1999.11.11)

1. 2000年問題対応作業による定期保守点検時間の変更（延長）について
2. 学外ネットワークの停止について
3. 2000年問題（Y2K）に便乗したウィルスについて

No.147(1999.11.5)

1. 2000年問題の対策について
2. 学外ネットワークの停止について

No.146(1999.10.26)

1. 定期保守点検時間の短縮について
2. 学外ネットワークの混雑状況について
3. センターへのご意見、ご要望等について
4. 学外ネットワークの停止について

No.145(1999.9.1)

1. 第二期の建物内LANの高速化工事について
2. 事務局棟及び保健管理センターのネットワークの停止について

12.4 他部局との連携

学術情報処理センターは、学内共同利用施設として、全学に情報基盤としての全学ネットワーク及び研究・教育用計算資源を提供するとともに、業務及び研究・教育における連携を図っている。以下の主な活動を示す。

- 学術情報処理センター設置の主な目的の一つとして、電子図書館機能の整備が挙げられている。電子図書館機能の整備は、附属図書館との連携の下に準備を行っている。整備中の電子図書館機能は、附属図書館所蔵目録と連携し、附属図書館所蔵の貴重書、学内開講講義のシラバス、教員の研究・教育活動に関する情報などを提供する予定である。また、これらの業務を円滑に遂行するために、附属図書館学術情報係長及び係員を学術情報処理センターへ併任としている。
- 大学における学術情報の電子化において、事務組織との連携も不可欠の要素である。そこで、総務部情報処理係と連携し、事務情報の電子化及びセキュリティ管理などの支援を行っている。また、これらの業務を円滑に行うために、総務部情報処理係員を学術情報処理センターへ併任としている。

- 学術情報の電子化に伴う様々な新しい技術を採り入れ、学術情報処理センターのサービスの質の向上を図るためには、学術情報システムに関する研究体制が不可欠である。学術情報処理センターでは、理工学部知能情報システム学科との協力の下で、システム管理技術や利用技術の研究開発を行っている。更に、関連する学部生及び大学院生の教育を行っている。
- 情報処理技術の基礎は、大学におけるリテラシー教育として重視されている。佐賀大学においても、全学共通の基礎科目として講義及び演習が低学年で行われ、学術情報処理センター演習室が利用されている。講義及び演習を主として担う全学教育センター情報処理部会との協力の下、学術情報処理センターでは情報処理教育内容の検討及び演習用システムの検討を行っている。また、演習用教科書作成、利用相談などを行っている。